

和仏法律学校講義録

加古, 貞太郎 / 前田, 孝階 / 富井, 政章 / 遠藤, 忠次 / 兩
角, 彦六 / 若槻, 禮次郎 / 掛下, 重次郎 / 梅, 謙次郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

1-18

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

43

(発行年 / Year)

1899-10-20

和佛法律學叢書

第一卷

第拾八號

每月貳回

目次

契約	法(自八五頁)	法學博士富井政章
民法債權	(自三三五頁)	法學士兩角產六
親族	法(自二四一頁)	法學士掛下重次郎
強制執行	(自七三頁)	法學士遠藤忠次
民事訴訟	(自三三頁)	法學士前田孝階
民法原理	(自八四頁)	法學博士梅謙次郎
相續	法(自一三七頁)	法學士若槻禮次郎
民法物權(物上擔保)	(自五七二頁)	法學士加古貞太郎

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

舊民法ニ所謂不正ノ損害ヲ改メテ不法行爲ト爲シタルハ前ニ述ヘタル如ク加害ノ結果ヲ示スヨリハ寧ロ其結果ヲ生レタル所爲ヲ示スヲ以テ法理ニ適合スルモノト認メタルカ故ナリ古來準犯行ト稱スルモノハ其不法ナル事由即チ自己ノ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル點ニ在リ過失即チ債權發生ノ基因ニ外ナラサルヲ以テ不法行爲ナル總稱ヲ用ヒタルハ固ヨリ其當ヲ得タルコトヲ信スルナリ

尙ホ事務管理及ヒ不當利得ナル語ニ付テ一言セン事務管理トハ本來妥當ナル語ニ非ス蓋委任ニ因リテ代理人タル者カ委任者ノ事務ヲ管理スルモ文字ヨリ言ヘハ固ヨリ事務管理ニ外ナラス又後見人カ被後見人ノ事務ヲ管理スル如キモ同一ナリ然レトモ此ニ所謂事務管理トハ斯ク汎博ナル意義ヲ有スルニ非ス委任又ハ法律上ノ義務ナクシテ他人ノ事務ヲ管理スルヲ謂フ故ニ用語其當ヲ得サルコト論ナシ唯慣例ニ由リテ之ヲ用フルニ至リタルノミ又不當利得ノ語モ妥當ナラス是レ正當ノ原因ナクシテ生シタル利得ト謂フ意味ナリ利益ヲ得タルコトカ不當ナルニ非ス償還セサルニ於テハ不當ナルニ由リ此語ヲ慣用ス

ルニ至リタルナリ。然レモ、債權ノ發源ノ分類法ニ付キ外國ノ立法例ヲ略述ス可シ。佛言ヲ終ルニ臨ミ債權ノ發源ノ分類法ニ付キ外國ノ立法例ヲ略述ス可シ。佛法系ニ屬スル自伊其他ノ法典ハ佛法ニ倣ヘルヲ以テ之ト大同小異ナリ英國ニハ債權ノ發生事項ニ關シテ一括セル成文法ナク學者亦契約法又ハ私犯法ナル名稱ノ下ニ其各事項ヲ説明セリ故ニ法制トシテ一定ノ分類法ヲ示スコト能ハス

獨逸新民法ハ佛法系ノ諸法典ト其趣ヲ異ニスル所多シ而シテ其第一章案ト第二章案及ヒ確定法トノ間ニ於テモ亦大ニ相異ナル所アリ第一章案ニ於テハ債權ノ原因ハ之ヲ三種ニ大別シ(一)生存者間ノ行為(二)不法行為(三)其他ノ事由ト爲セリ而シテ更ニ其第一ノ事由ヲ分チテ契約及ヒ一方ノ約束ト爲シ不當利得及ヒ事務管理ノ如キハ之ヲ第三事由ノ中ニ入レタリ右債權ノ三大發源ハ債權篇第二章以下ニ之ヲ規定シ其第一章ニハ債權其モノニ關スル規定即チ債權ノ發源ト離レテ其目的効力及ヒ消滅債權又ハ債務ノ承繼多數當事者ノ債權ヲ規定セリ此分類法ハ債權ノ發源ヲ以テ債權關係ノ外部ニ屬スル事項ト認メ債權自

體ニ關スル法則ヲ規定シタル後恰モ債權法第二部トシテ之カ規定ヲ爲サント欲シタルモノナリ是レ固コリ一定ノ論理ニ基キタル分類法ト見ルコトヲ得ヘシ」第二讀會草案ニ於テハ大ニ此分類法ヲ變更シ更ニ些少ノ改正ヲ加ヘ以テ今日ノ確定法ト爲ルニ至レリ其改正ノ要點ハ契約ノ總則ヲ割キテ之ヲ債權篇第二章トシ債權ノ內容即チ債權ノ目的及効力ノ次其消滅移轉等ノ前ニ規定シタルニ在リ而シテ同編第七章ニ至リ種々ノ債務關係ナル題下ニ於テ各種ノ契約事務管理等二十五種ノ原因ヲ列舉セリ此改正ヲ加ヘタル理由ハ蓋契約ノ効果ハ債權ノ內容ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲ分離スルコト能ハサルモノト爲シタル故ナラン即チ契約ノ効果タル當事者相互ノ權利義務ハ即チ債權ノ効力ニシテ殆ント之ト同一體ヲ爲シ別箇ニ觀察スルコトヲ得サルモノト認メタルナリ但契約ノ成立ニ關スル事項即チ申込及ヒ承諾ニ關スル規定ハ之ヲ第一編民法ノ總則ニ編入セリ故ニ其殘部ハ契約ノ効果及ヒ解除ニ關スル規定ナリ然レトモ是レ前述ノ如ク債權ノ內容ト殆ント分離ス可カラサル關係ヲ有スルカ故ニ債權編ノ總則トモ視ルヘキ場所ニ其位置ヲ移シタルモノナリ又一方ヨリ

考フルニ漠然如何ナル種類ニモ屬セサル契約ヨリ債權關係ヲ生スルコトナシ
必スヤ賣買貸借ノ如キ或種類ノ契約ヨリ之ヲ生スルモノナリ果シテ然ラハ債
權ノ發源ニ關スル規定中ニ契約ノ總則ヲ包含セシムルハ或ハ其當ヲ得タルモ
ノニアラス是レ末章ニ至リテ各種ノ契約其他ノ債務ノ原因ヲ掲ケタル所以ナ
ランカ尙ホ確定法ニ列記主義ヲ採用シタルハ第一章案ニ於ケル如ク學理上ノ
分類ニ重キヲ置カス主トシテ實際上ノ便宜ニ基キタルモノナリ

右獨逸民法ノ主義ニ關シ注意ス可キ點少シトセス殊ニ其最モ斬新ナル原則ハ
或範圍内ニ於テ片面約束ヲ以テ獨立ナル債務ノ發源ト爲シタルノ異ナリトス
即チ我新民法第五百二十九條以下ニ規定セル廣告ノ如キハ獨逸法ニ於テハ決
シテ契約ノ觀念ニアラス即チ或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フ可キコ
トヲ廣告セハ直チニ之ニ因リテ債務ヲ生スルモノト見ルナリ此觀念ハ他國ノ
學說及立法例ニ見サル所ニシテ余ノ見ル所ヲ以テセハ進歩シタル立法ノ觀
念ナリト信ス又此觀念ハ代理權ノ發生其他ノ事項ニ關シテモ見ル所ニシテ畢竟
或場合ニ於テ吾人ノ單獨ナル意思表示ニ一定ノ責任ヲ附シタルモノニ外ナラ

第一 組合員ノ持分ノ處分ハ組合及組合ト取引シタル第三者ニ對抗スルコト
ヲ得ス(第六七六條)

組合ノ財産ハ組合ノ共同事業ニ使用セサルヘカラサルニ中途他人ニ讓渡シ而
シテ其讓渡カ絕對ニ有効ノモノナリトセハ組合ハ到底繼續スルコトヲ得ス故
ニ法律ハ組合員ノ其持分ヲ處分スルコトヲ禁止セサルモ只組合ノ利益ヲ害セ
サル範圍内ニ於テ即チ組合及ヒ取引セル第三者ニ對シテ効力ナキモノトシテ
其處分行爲ヲ認メタリ故ニ假令組合員ニ於テ持分ヲ處分スルモ其財産ハ組合
ノ使用ニ供セラレ組合ノ債權者ハ依然其財産ノ上ニ自己ノ權利ヲ行使スルコ
トヲ得可シ

第二 組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス
組合共同ノ目的ヲ達スル爲メノ共有財産ナレハ未タ其目的ヲ達セサルニ之ヲ
分割スルコトハ當事者ノ意思ニ反スルコト勿論ナリ故ニ假令其組合カ五年以
上ニ渉ルモ組合契約ノ爲ニ之ヲ共有ニ置ク以上ハ其解散前ニ分割ヲ求ムルコ
トヲ得ス是レ全ク共有ノ通則ニ反スル例外ナリ

第三 組合ノ債務者ノ債務ト其組合員ニ對スル債權ト相殺スルコトヲ許サス
 組合ノ債權ト組合員ノ債務ト相殺シ得ルトセハ組合全體ノ債權ヲ以テ其一組合員ノ利益ニ供スルモノナレハ組合ノ利益上並ニ目的上之ヲ許スヘキニアラス加之組合員モ亦組合ノ債務者ニシテ自己ノ債權者タル所ノ第三者ニ對シテ組合ノ債權ヲ引用シテ相殺ヲ主張スルコトヲ得ス即テ例ヘハ組合ノ債務者タル甲ハ同時ニ乙ナル組合員ノ一個ノ債權者ナリ此場合ニ乙ハ自己ノ債務ヲ以テ組合力甲ニ對シテ有スル債權ト相殺ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ組合ノ債權ヲ以テ自己ノ債權ト相殺スルハ即チ其組合ニ對シテ有スル自己ノ持分ヲ處分スルニ外ナラス持分ヲ處分スルコトノ組合ニ對シテ効力ナキハ第一ニ説明セルカ如シ

第四 一般ノ通則ニ從ヘハ一債務ニ付テ數名ノ債務者アルトキハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スルヲ通則トス第四二七條然ルニ組合ノ場合ニハ法律ハ特約ナキ限り又第三者ヲ害セサル限りハ組合員ノ損益ニ付テハ常ニ平衡ヲ維持スルコトヲ期セルカ故ニ法律ハ通則ニ反シテ組合債務ニ付テハ各組合

員ハ其損失分擔ノ割合ニ應シテ之ヲ負擔スヘキモノトセリ但シ之カ爲メニ善意ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス即チ債權發生ノ當時ニ損失分擔ノ割合ヲ知ラサル者ハ均一辨濟ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

此ノ如ク法律ハ組合ノ債務ニ付テ組合員各自分擔ノ主義ヲ取レリト雖モ是レ從來ノ法律ト反スル所ニシテ既ニ舊法ノ如キハ全ク組合員間ニ連帶ノ主義ヲ採レリ(取第一四三條是レ畢竟連帶ハ一ノ擔保ニシテ此擔保アルトキハ一層組合ノ信用ヲ厚カラシムルコトヲ得ルカ爲メナル可キモ一面組合員ヨリ之ヲ觀察セハ其責任重キカ爲メニ組合ヲ組織スルヲ躊躇スルノ恐ナシトセス加之如何ナル場合ニ於テモ法律ハ反對ノ特約ヲ禁スルモノニアラサレハ法律上ヨリ常ニ連帶主義ヲ強行スルノ要ナシトシテ本法ハ之ヲ採ラス

第三款 組合業務ノ執行

組合ハ無形團體ナレハ其共同事業ニ就テハ營業上一切ノ事務ヲ處辨スル人ナカルヘカラス而シテ之ヲ處辨セツ、組合ハ或ハ債權ヲ取得シ或ハ債務ヲ負擔シ行タモノタリ果シテ何人カ其業務ヲ執行スヘキヤ

第一 特ニ業務執行者ヲ定メザリシ場合

此場合ニハ各組員ハ悉ク業務執行ノ權利ヲ有ス然レトモ其業務ヲ執行スルニ付テハ必ラス總組員ノ一致ノ承諾ヲ要スルカ或ハ各組員各自獨立シテ之ヲ處分スルコトヲ得ルヤ或說ニ依レハ本來組合ノ基礎ハ人ニ在ルカ故ニ數人カ共同シテ事業ヲ營ム以上ハ數人共同シテ業務ヲ執行スヘキコト當然ナリト論スルアリ或他ノ說ニ依レハ共同ノ目的ヲ以テ組合ヲ組織スル以上ハ各組員ハ相互ニ委任ヲ爲シタルモノト推定シ得ルヲ以テ組員ハ各自獨立シテ業務ヲ處辨シ得ラレサルヘカラスト論スルアリ然レトモ二說何レモ極端ニ偏スルモノニシテ第一說ニ從ヘハ些々タル事項ニテモ組員一致ノ承諾ヲ得テ爲サ、ル可カラサルカ故ニ組合ノ事業ハ舉ルニ由ナシ又第二說ハ其反對ニ假令事業ノ滯滞ナリト雖モ組合ノ重大ナル事務モ悉ク一組員ノ獨斷ニテ執行セラレ而シテ組員全體ハ甘んシテ其結果ヲ負ハサルヘカラスト茲ニ於テ第三說アリ即チ組員ノ過半数ノ意思ヲ以テ之ヲ執行スト云フニアリ法律ハ此折衷主義ヲ採用セリ

第二 特ニ業務執行者ヲ定メタル場合

此場合ニ於テ若シ其執行者一人ナレハ何等ノ規定ヲ要セス獨立シテ事務ヲ處辨ス若シ特定ノ執行者數人アルトキハ又其過半数ノ意見ヲ以テ處辨セサルヘカラスト尤モ第一第二ノ場合ニ於テモ其組合ノ常務ニ付テハ各組員又ハ各業務執行者ハ專斷ニ之ヲ行フコトヲ得第六七〇條二項

業務執行者ヲ定ムルハ或ハ組員中ヨリスルアリ或ハ組員外ノ第三者ヲ以テ執行者ト爲スコトアリ第三者ニ業務執行ヲ托スル場合ニ於テハ組員ト第三者トノ間ニ純然タル一ノ委任契約ノ成立ヲ見ル可シ組合契約ヲ以テ組員中ヨリ業務執行者ヲ擧ケタル場合ニ於テハ相互ノ關係ハ委任ニ出ルモノト見ルコトヲ得ス云ハ、組合契約ノ結果ト看做スヘキモノナルカ故ニ此場合ニハ全然委任ノ法則ヲ適用スルコトヲ得ス即チ準用スト云フノ外ナキナリ隨テ組合契約ニ因テ業務ヲ執行スル組員ハ正當ノ事由アルニアラサレハ辭任スルコトヲ得ス又解任セラレ、モノニアラス而シテ其人ヲ解任スルハ即チ組合契約ヲ變更スルモノナレハ他ノ組員一致ノ意見ニ依ラサルヘカラスト之ニ反シ

組合契約以後ノ特約ヲ以テ業務執行者ヲ舉ゲタルトキハ其業務ヲ執行スル組合員ト他ノ組合員トノ間ニ更ニ特別ノ委任關係成立スルモノト云ハサルヘカラス(第六七一條第六七二條)

尙此他業務ノ執行權ナキ組合員ト雖モ固ヨリ共同事業ノ成績ニ付テハ利害關係ヲ有スル者ナルカ故ニ業務執行者ノ業務ヲ監査シ或ハ組合財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得可シ(第六七三條)

第四款 組合契約ノ終了

組合契約終了ノ原因ニ二アリ

- (一) 或組合員ノ爲メニノミ契約關係ノ終了スルモノ
此場合ハ他ノ組合員間ニハ依然契約關係ハ繼續ス
- (二) 各組合員間ノ契約關係全然終了スルモノ
第一ハ組合員ノ脱退ニシテ第二ハ組合ノ解散ナリ

第一項 組合員ノ脱退

當事者ノ意思表示ニ因リテ成立スル契約關係タル組合ハ組合員ノ一人脱退ス

ルヤ同時ニ組合全體ノ解散ヲ來スヘキヲ當然ナリトス然レトモ法律ハ實際ノ便宜ヲ計リ組合員ノ脱退ハ單ニ其組合員ノミヲ契約關係ヨリ脱離セシムルニ止マリ他ノ組合員ノ間ニハ尙ホ組合ヲ繼續セシム

組合員脱退ノ原因ハ五アリ第一組合員ノ死亡第二破産第三禁治産第四除名第五任意ノ脱退是ナリ

死亡破産禁治産ハ從來ノ法律ニテハ組合全體ノ解散原因ト爲セリ是レ組合ヲ以テ當事者其人ニ重キヲ置クモノト看做スカ故ナリ然レトモ法律ハ民事上ノ組合ト雖モ必スシモ常ニ人的契約ト認メサルカ故ニ前三原因ヲ以テ組合解散ノ事由ト爲サス第四ノ除名ハ其組合員ニ對スル一ノ責罰ニシテ除名者ニ於テハ之カ爲ニ財産上ノ利益ヲ害セラルハ勿論之カ爲ニ自家ノ名譽ニ汚辱ヲ被ムルコトナシトセサレハ其處分ハ最モ慎重ニ之ヲ行ハサル可カラス故ニ除名處分ハ(一)正當ノ事由アル場合ニ於テ(二)他ノ組合員一致ノ意見ヲ要ス(三)又其除名ハ必ラス之ヲ除名者ニ通知セサルヘカラス第六八〇條尤モ或場合ニ於テハ事實トシテ却テ除名者カ多數ヲ占ムルコトナシトセス斯ル場合ニハ勢ヒ其組

合ヲ解散スルノ外ナキナリ

終リニ任意ノ脱退トハ當事者自ラ任意ニ其組合ヲ脱退スルヲ云フ即チ(第一)組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサル場合或ハ又或組合員ノ終身組合ノ存續スヘキコトヲ定メタル場合(是レ亦期間ヲ定メサルモノト見ルコトヲ得)ニ於テハ理由ノ如何ヲ問ハス又何等ノ理由ヲ示サスシテ自由ニ脱退スルコトヲ得尤モ一面ニハ組合ノ利益ヲ慮カラサルヘカラサルカ故ニ若シ組合ノ爲メニ不利益ナル時期ニ於テ脱退センニハ事實止ムヲ得サル事由ナカルヘカラス(第二)契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メタル場合ニハ本則トシテ組合員ハ任意ニ脱退スルコトヲ得ス但シ此場合ト雖モ止ムコトヲ得サル事由アルトキハ格別ナリトス

組合員ノ脱退ハ固ヨリ組合其者ヲ解散スルニアラスシテ單ニ脱退者ヲ契約關係ヨリ省キ將來組合員タル資格ヲ失ハシムルニ過キサレハ之カ爲メニ清算手續ヲ爲スニ及ハス只其組合ト脱退者トノ間ノ計算ヲ果スヲ以テ足ル又其脱退者ニ支拂ヲ爲スニハ其出資物ノ如何ナル種類タルヲ問ハス金錢ヲ以テスルコ

コトヲ得可シ(第六八一條)

第二項 組合ノ解散

第一 解散ノ原因及効力

組合解散ノ原因ニハ法律上當然生スルモノト任意のモノトアリ其當然解散ノ原因トシテ法律ニハ目的タル事業ノ成功若クハ其成功ノ不能ノ二者ヲ示セリ(第六八二條)此他或ハ期間ノ満了ノ解除條件ノ到來等皆當然解散ノ原因タリ又前ニ示シタル或組合員ノ死亡(破産禁治產者クハ出資ノ不能等ノ如キ原因モ之カ爲ニ組合事業ノ成功ノ不能ヲ牽起セハ又當然解散ノ原因トナルヘシ)任意ノ解散原因トハ組合員ノ一致ノ意見又ハ或組合員ノ請求ニ依ル解散ナリ一致ノ意見ニ出ツル場合ニ於テハ其時期ト理由トヲ問ハス組合ヲ解散スルコトヲ得可シ或組合員ノ請求ニ依ル解散ハ止ムヲ得サル事由アル場合ニ限ルモノトス(第六八三條)

組合ノ解散ハ即チ契約ノ解除ナルカ故ニ若シ契約解除ノ通則ヲ適用センカ効力ハ既往ニ遡リテ各組合員ヲ契約以前ノ原狀ニ回復セシメサルヘカラス是レ

徒ニ煩雜ナル計算ヲ要スルノミナラス却テ當事者間ニ不公平ナル結果ヲ生スルコトナシトセス故ニ解散ハ將來ニ向ツテノミ効力ヲ生スルモノトセリ(第六八四條)

第二 清算

組合ノ解散スルヤ其最終ノ處分トシテ組合ノ事業ハ之ヲ完結シ組合ノ債權ハ之ヲ取立テ又ハ組合ノ債務ハ之ヲ辯濟シ而シテ殘餘ノ財産アレハ之ヲ組合員ニ配當シ不足アレハ之ヲ取立テナルヘカラス其清算人ノ選定等ニ付テハ第六八五條乃至六八八條及ヒ引用條文ヲ參照シテ明カナリ

第十一節 終身定期金

終身定期金契約トハ當事者ノ一方カ或人當事者又ハ第三者ノ死亡ニ至ル迄定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スル契約ナリ(第六八九條)故ニ終身定期金契約ハ何レノ場合ニ於テモ當事者ノ意思表示ノミニ因リ成立スル諾成契約ナリト雖モ時ニハ有償契約ヲ爲シ時ニハ無償契約タルコトアリ即チ若シ定期金債務者ニ於テ債權者ヨリ定期金ノ元本ヲ受取リタル場

合ニ於テハ其契約ハ有償ニシテ反之單ニ報恩若クハ慈惠ノ趣旨ニ出テ、定期金ヲ約諾セルトキハ無償契約ナリトス

此終身定期金契約ノ有償ナルト無償ナルトニ因リテハ債權者ノ有スル契約解除權ニ付テ法律ノ規定ヲ異ニス無償ノ終身定期金契約ナルトキハ一般ノ通則ニ從ヒ債務者ニ於テ定期金ヲ支拂ハサルトキハ債權者ハ相當期間ヲ定メテ催告ヲ爲シ其期間内ニ履行ナキ場合ニ於テ始メテ其契約ヲ解除シ併セテ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得可シ反之有償ノ定期金契約ニ於ケル債務者カ定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ債權者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得而シテ其既ニ受取リタル定期金ノ内ヨリ元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還シテ而シテ元本ノ取戻ヲ求ムルコトヲ得且併セテ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス蓋シ元本ヲ受取リタルニ對シテ給付スル定期金ハ其性質ニ於テ元本ノ幾分ト其利息トヲ包含スルモノト看做スコトヲ得レハナリ(第六九一條)

從來ノ法律ニ於テハ人ノ一生涯ヲ期スル終身定期金ノ外尙無期年金契約ナル

モノヲ認メタリ兩者何レモ我邦ニ於テハ普及セル慣例ニ非ス其從來泰西諸國ニ認メラレ來リタル所以ノモノモ畢竟往時利息附貸借ヲ嚴禁シタル結果ニ外ナラサルカ如シ然レトモ既ニ利息附貸借ノ公認セラレタル今日ニ於テハ此ノ如ク貸借以外ニ別ニ定期金契約ヲ認ムルノ必要アリヤ其無期定期金契約ノ如キハ債務者ヲシテ永久ニ債務ヲ負擔セシムルモノナレハ何人モ其欲スル所ニアラサル可ク從テ其實用ハ全ク之レ無シト云フモ可ナリ只終身定期金契約ニ至リテハ今日尙ホ多少ノ實用ナキニアラス或ハ依テ以テ小賣力者ニ老後ノ活路ヲ與フルノ一手段ト爲リ或ハ他ノ功勞恩誼ニ報酬スル一方法タルノ便宜ナキニ非ス是レ今日ニ在テ尙ホ法律ノ終身定期金契約ヲ認ムル所以ナリト雖モ而モ人ノ一生ヲ期スル以上ハ其人ノ死亡ノ運速ハ直接ニ債務者ノ負擔ニ影響ヲ及ホス可キカ故ニ或ハ爲メニ殺傷等ノ不徳義ナル罪行ヲ媒介スルコトナシトセス是レ本契約ニ於テ最モ慮ル可キノ弊害ナリトス故ニ法律上特ニ此點ヲ慮リ若シ終身ヲ期セラレタル人ノ死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間尙ホ債

爲メニハ保護ニ付テハ二個ノ方法アリト雖モ子カ其家ニ於テ父母アルトキハ親權ニ依リテノミ保護ヲ受ケ此場合ニハ後見ヨリ生スル保護ヲ受ケサルナリ其後見ヲ以テ未成年者ヲ保護スルハ父母ナキトキニ限ルナリ然レトモ母ノミ存スルトキト雖モ母ニシテ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ其財産ノ管理ニ付テハ母アルニ拘ハラス後見ノ開始ヲ見ル可シ(第八九條第九〇〇條第一號)故ニ未成年者ノ爲メニハ二個ノ保護アリト雖モ同時ニ二個重複ノ保護ヲ受タルニアラサルナリ

親權ト戸主權

親權ヲ行フ者カ一家ノ戸主ナルトキハ親權ト戸主權トハ同一ノ人ニ集マルカ故ニ此等二者ノ衝突ヲ見ルコトナシト雖モ若シ親權ヲ行フ者ノ外ニ戸主アルトキハ親權ニ服スル者ハ同時ニ戸主權ニモ服セサル可カラサルモノニシテ此二者ハ相互ニ衝突スルニアラサルカノ疑ナキ能ハス然レトモ深ク新法ヲ檢覈スルトキハ決シテ衝突スルモノニアラサルナリ先ツ親權ハ子ノ身上及ヒ財産上ノ利益ヲ圖リテ之ヲ設ケ戸主權ハ家ノ利益ノ爲メニ之ヲ設ケタルモノナル

カ故ニ其目的自カラ同シカラサルモアリ例ヘハ子ノ教育懲戒其財産ノ管理等ハ専ラ親權ノ作用ニ屬シ毫モ戸主權ニハ關係ヲ有セサルナリ戸主權ハ家族ノ居所ヲ定メ其婚姻養子縁組ヲ許否シ其他家族カ其家ヲ辭シテ他家ニ入り又ハ他家ヨリ其家ニ入ルニ付キ同意ヲ表シ又ハ不同意ヲ唱フルノ權ヲ有スルニ過キス換言スレハ戸主權ハ家ノ管理ヲ以テ目的トシ親權ハ人ノ保護ヲ以テ目的ト爲ス而シテ前者ハ其効力家ノ全體ノ利害ニ影響ス可キモノハ外ヲ出テス後者ハ其効力専ラ各個人ノ身上財産ニ對スルモノニシテ其目的効力ヲ異ニスルカ故ニ此二者衝突シテ家内ノ平和ヲ破フルノ恐アラサルナリ然レトモ戸主ハ家族ノ居所ヲ定ムル權ヲ有シ第七四九條親權ヲ行フ者モ亦此同一ノ權ヲ有ス第八八〇條又家族カ婚姻又ハ縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ要シ尙ホ其外家ニ在ル父母親權ヲ行フ者ノ同意ヲモ要ス可キヲ以テ其一方カ定メタル居所ト他ノ一方カ定メタルモノ同シカラサルコトアル可ク又婚姻又ハ縁組ニ付テモ兩者ノ意見同シカラサルコトアル可シト雖モ此等ノ場合ニ於テハ親權者カ戸主ノ定メタル居所又ハ婚姻又ハ縁組ニ關スル意見ニシテ未成年者ノ爲メ甚

タ不利益ト認メ戸主カ與フ可キ制裁ヲ甘受シテ子ノ居所ヲ定メ婚姻又ハ縁組ヲ爲スヲ得ルコトハ成年ノ家族カ之ヲ爲スト敢テ異ナルコトナシ故ニ此等ノ事項ニ關シテモ兩者ノ間ニ衝突アル可キ謂ハレナキナリ
本章ハ之ヲ分チテ三節トス即チ第一節總則第二節親權ノ効力第三節親權ノ喪失是ナリ

第一節 總則

此節ニ於テハ親權ヲ行フ者及ヒ親權ニ服スル者ハ何人ナルヤヲ定ム

親權ニ服スル者及ヒ親權ヲ行フ者

子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル生計者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハ

サルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ(第八七七條人事編第一四九條)

(一)親權ニ服ス可キ者ハ未成年ノ子ニ限ル可キヤ或ハ未成年ノ成年間ハサル可

キヤハ諸國ノ立法例異ナル所ナリト雖モ其多クハ未成年ノ子ニ限レリ然レト

モ稀ニハ一層制限シ未成年者ニシテ未タ自治產ノ宣告ヲ得サル者ニ限り既ニ

之ヲ得タル者ハ未成年者ナリト雖モ親權ニ服セサルコトトスルモアリ舊人事編ハ何等ノ制限ヲモ設ケスシテ廣ク親權ハ父之ヲ行フ云々ト規定シタレハ解釋上成年ノ子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルモノト爲レトモ是レ從來ノ慣習ニ反スルヲ以テ新法ハ以上ノ立法例ト吾國情トニ基キ原則トシテ親權ニ服スル者ハ子ノ成年ト未成年トヲ分タサルコトトシタレトモ其例外トシテ獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ親權ニ服セサルモノトシタリ而シテ獨立ノ生計ヲ立ツルヤ否ヤハ固ヨリ事實問題ニシテ裁判官ノ査定ニ任ス可キモノナレトモ獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ自己ノ資產若クハ勞務ニ因リテ生活スルヲ云フ獨立ノ生計ヲ立テサル成年者ハ其戸主タル家族タルト又婚姻ヲ爲シタル者ト否トヲ問ハス常ニ親權ニ服スルモノトス獨立ノ生計ヲ立テサル成年者カ婚姻ヲ爲シ子ヲ擧ケタルトキハ己レ自身ハ親權ニ服スレトモ之ニ拘ハラス其子ニ對シテハ親權ヲ行フコトヲ得若シ親權ニ服スル未成年者カ婚姻ヲ爲シテ子ヲ擧ケタルトキハ其子ニ對スル親權ハ其父タル未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者之ニ代ハリテ行フ然レトモ親權ノ効力ハ懲戒權ヲ除クノ外ハ單ニ未成年ニ付テノミ

存スルモノトセリ第八七九條乃至第八五條故ニ成年者ニ對スル親權ノ効力ハ實際ニ於テハ至テ薄弱ナリ
(二)親權ヲ行フ者ハ原則トシテハ其家ニ在ル父ナリ然レトモ私生子ノ如ク父カ知レサルトキ父カ死亡シタルトキ又ハ分家ヲ爲シ廢絶家ヲ再興シ他家ノ養子ト爲リ養子カ離縁ヲ爲シ入夫カ離婚ヲ爲シタル等ニテ其家ヲ去リタルトキ又ハ不在心神喪失等ニテ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ可キモノトセリ

古昔羅馬ニ於テハ専ラ父ノ利益ノ爲メニスルノ精神ニ出テタレトモ近世諸國ノ立法ニ於テハ主トシテ子ノ利益ノ爲メニスルノ主義ヲ取ルカ故ニ子ノ天然ノ保護者タル父及ヒ母ニ親權ヲ屬セシメタリ然レトモ是レ父母同時ニ之ヲ行フニ非スシテ母ハ以上叙述スルカ如ク父カ行フコト能ハサルトキニ限り之ヲ行フナリ而シテ親權ハ父又ハ母ト雖モ子ト家ヲ同シスル者ニ限ル故ニ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者ニ對シテハ實家ノ父母ハ親權ヲ行フコトヲ得ス又子カ家ヲ去リタルニ非スシテ親權ヲ行フ者カ分家若クハ本家相

續ノ爲メ又ハ離婚若クハ離婚シテ子ノ家ヲ去リタル場合ニ於テモ親子家ヲ異ニスルヲ以テ親權ヲ行フコトヲ得サルナリ而シテ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ實家ノ親權ヲ脱スルト同時ニ養家ノ親權ニ服スルモノトス法律カ親權ヲ行フ者ヲ家ニ在ル父又ハ母ニ限リタルハ蓋シ吾邦從來ノ慣習ニ依レハ家ヲ異ニスル父又ハ母ハ子ニ對シテ充分ナル權力ヲ有セサルモノニシテ苟モ家族制ヲ存スル以上ハ全ク此慣習ヲ度外ニ置クコト能ハサルヲ以テナリ故ニ實父ハ他ニ在リテ繼父若クハ養親ト家ヲ同シウスル者ハ其愛情ヨリ云ヘハ血縁アル實父カ親權ヲ有シテ可ナルモノ、如シト雖モ子ヲ家風ニ通スル様訓戒スルカ如キニ至リテハ家ヲ同シウスル父ノミ適當ニシテ他ニ在ル實父ニ容喙セシム可キモノニ非ス此ノ如キ事ニ關シテハ實父ハ權力ヲ有セサルヲ以テ右ノ如キ規定ヲ設ケタルナリ

繼父母及ヒ嫡母ニ特別ナル規定

繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章後見ノ章ノ規定ヲ準用ス(第八七八條、人事編第一五八條乃至第一六〇條)

繼父母又ハ嫡母モ親權ヲ有スト雖モ此等ノ者ハ子ト自然ノ血縁ヲ有セサルヲ以テ愛情ニ乏シク動モスレハ相敵視スルコトナシトセサルモノニシテ此等ノ者ハ子ノ充分ナル保護者ニアラサルヲ以テ繼父母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ後見ニ關スル規定ヲ準用シ此等ノ者ハ後見人ト同一ノ權力ヲ有スルニ止マル者トセリ

第二節 親權ノ効力

監護及ヒ教育ヲ爲スノ權利及ヒ義務

親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ第八七九條、人事編第一五〇條、第一五一條

監護及ヒ教育ハ専ラ子ノ身上ニ關スルモノニシテ法律カ親權ノ制ヲ設ケタルハ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲サシムルニ在リテ子カ此等ノ保護ヲ受クルハ専ラ未成年ノ間ニ在リ故ニ此規定ハ未成年者ノミニ關ス而シテ監護トハ監督保護シテ子ノ發育ヲ圖ルニ在ルモノニシテ別ニ之カ説明ヲ爲スヲ要セサレトモ教育ニ付テハ親權者ハ如何ナル程度ニマテ子ヲ教育ス可キヤ例ヘハ高等教育ヲ授

タ可キヤ又ハ中等教育又ハ下等教育ニ止ム可キヤ等ハ各人ノ身分及ヒ實力ニ應ス可キモノナレハ法律ハ別ニ之カ程度ヲ定メス又其教育ノ方法モ同シク其身分實力及ヒ子ノ性質等ニ依リテ定ム可キモノナレハ法律ハ之ヲ前者ト其ニ一ニ親權者ノ判斷ニ任スルコト、セリ
 子ノ監護及ヒ教育ハ一方ニ於テハ父又ハ母ノ權利ナレトモ又他ノ一面ヨリ云フトキハ其義務タルナリ
 茲ニ注意ス可キハ親ハ小學校令ニ依リ子ヲ小學校ニ入ラシム可キ義務アリ而シテ親ハ此義務ヲ盡スヲ以テ其子ニ對シ教育ニ關スル義務ヲ盡シタリト云フヲ得ス小學校令ヨリ生スル親ノ義務ハ公法上ノ義務ニシテ子ト親トノ關係ニ非ス之ニ反シテ親權ヨリ生スル義務ハ私法上ノ關係ナレハ親子間ノ權利義務ヲ規定シタルモノニシテ身分ノ高キ者實力ヲ有スル者ハ其身分實力ニ相應スル教育ヲ爲ス可キ義務アルモノニシテ公法上ノ義務ナル小學校ニ入ル、ヲ以テ足レリトセス尙ホ高等ノ教育ヲ授ケサル可カラサルナリ
 此規定ハ既ニ說キタルカ如ク子ノ身上ニ關スルニ止マリ其財産ニ關セザレハ

子ノ教育ハ必スシモ親ノ費用ヲ以テス可シト云フニアラサルナリ子ノ教育ノ費用ハ原則トシテハ子ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス可ク唯其財産ナキトキニ非ザレハ父ハ其費用ヲ負擔セサルナリ(第八九〇條第九五六條)
 居所指定ノ權

未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨グス(第八八〇條人事編第一五〇條)
 戸主カ其家族ノ居所ヲ指定スル權ヲ有スルコトハ義キニ第七百四十九條ニ付キ說キタル所ナルカ親權者モ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ指定スルコトヲ得ルモノトセリ是レ監護教育ノ權利ヨリ生スル重要ナル効果ノ一ナリ若シ未成年者ニ隨意ニ其居所ヲ定ムルコトヲ許ストキハ或ハ浮浪惡好ノ徒ト交ハリ監護教育ノ權利ハ毫モ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ル可キヲ以テ此規定ヲ設ケタリ
 親權者カ戸主ニ非サルトキハ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ定ムル者二人ヲルヲ以テ其間ニ意見ノ衝突アルトキハ孰レノ意見ニ從フ可キヤ例ヘハ戸主ハ

其家ニ居ラシメント欲シ親權者ハ東京ノ學校ニ入ラシメントシタルカ如キ場合ニ於テ親權者ハ原則トシテハ戶主ノ意見ニ從フ可シト雖モ若シ戶主ノ意見ニ從ヒ家ニ留ムルヲ以テ子ノ爲メ不利益ナリトスルトキハ親權者ハ自己ノ意見ニ從ヒ子ヲ自己ノ指定シタル場所ニ居ラシムルコトヲ得可シト雖モ戶主ハ固有ノ戶主權ヲ有スルヲ以テ此場合ニ於テ戶主カ其權利ヲ實行セント欲スルトキハ之カ實行ヲ妨クルコトヲ得サルモノナレハ法律ハ其權利ノ實行ノ爲メ得ラル、限リ實行セシム可キモノトセリ故ニ子カ親權者ノ意見ニ從ヒタルトキハ戶主權者ハ自己ノ戶主權ニ服從セサル者カ未成年者ナルニ於テハ之ヲ離籍スルコトヲ得サレトモ第七四九條第三項此場合ニ於テハ第七百四十九條第二項ノ規定ニ從ヒ扶養ノ義務ヲ免ル、可シ

養キニ敘述シタルカ如ク親權ノ効力ノ成年ノ子ニ及フハ懲戒權ノミナレハ本條ノ規定スル所モ未成年者ノミニ關スルナリ

未成年ノ子カ父又ハ母ノ居所ノ指定ニ從ハサルトキハ如何ナル制裁アルカ親權者カ戶主ニアラサルトキハ自己ノ權ニ服セサル子ニ對シテハ戶主ノ如ク扶

養義務ヲ免ル、コトヲ得ス而シテ民法ニハ別ニ其制裁ヲ設ケサレハ唯本條規定ノ強制ノ方法トシテハ公力ニ訴ヘテ之カ實行ヲ爲スコトヲ得可シ例ヘハ訴訟ヲ提起シ若クハ警察ノ力ニ頼ムコトヲ得可ケレトモ本條ハ唯其權利ノ本則ヲ定メタルニ止マリ其強制ノ方法ノ如キハ本法ノ關スル所ニ非サルナリ

兵役ノ出願ヲ許可スル權利

未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス第八八一條人事編第一五〇條

此規定モ第八百七十九條ノ適用ニ過キス而シテ徵兵令(明治二十二年法律第一號第十二條ニ依レハ十七歳以上ノ男子ハ兵役ヲ出願スルコトヲ得ルヲ以テ未成年ノ子カ兵役ヲ出願セントスルトキハ是レ大ニ子ノ身上ニ重要ノ影響ヲ有スルモノナレハ未成年ナル場合ニ限リ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得可キモノトセリ

懲戒權

親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ら其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ

許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ル、コトヲ得
子ヲ懲戒場ニ入ル、期間ハ六ヶ月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期
間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得第八八二條、人事
編第一五一條第一五二條非訟事件手續法第九二條
此懲戒權ハ曩キニモ叙述シタルカ如ク未成年ニ限ラズ成年者ニモ關スルモノ
ニシテ其作用ハ法律ニ於テハ之ヲ一定セス或ハ叱責スルコトアリ或ハ殴打ス
ルコトアリ或ハ室内ニ監禁スルコトアリ此ノ如キハ一ニ親權者一己ノ所存
ニ在リト雖モ其程度ニ至リテハ餘リ甚シクシテ慘酷ニ陷非リ爲メニ子カ創傷
ヲ受クルカ如キハ法ノ許サ、ル所ナリ故ニ必要ナル範圍内ニ於テ云ヒ實ニ已
ムヲ得サル場合ニ於テ相當ノ程度ニ於テ懲戒ヲ加フルコトトセリ而シテ其程
度ハ全ク事實問題ニ屬スルモノナレハ一ニ裁判官ノ査定ニ任セサル可カラズ
若シ親權者カ其程度ヲ超ヘ親權ヲ濫用スルコトアリハ其權ノ作用ハ子ノ保護
ト爲ラスシテ却テ害ト爲ル可ケレハ其場合ニ於テハ第八百九十六條ニ規定ス
ル制裁ヲ受ケ親權者ハ其權利ヲ喪失スルコトアル可キナリ親權ノ濫用甚シク

シテ子ヲ殴打創傷シ又ハ慘酷ニ監禁制縛セテ衣服飲食ヲ屏去スル等苛酷ノ所
爲アルトキハ皆ニ親權者ハ其權利ヲ喪失スルノミナラス刑法ノ制裁殴打創傷
又ハ擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ヲ受ケ可キヤ論ヲ俟タサルナリ何トナレハ懲罰
ヲ加フルノ權利ハ國家ニ專屬スルモノニシテ個人カ擅ニ之ヲ爲スコトヲ得可
カラサレハナリ故ニ父又ハ母ノ專斷ニ依ル懲戒權ハ必要ナル範圍ヲ脱セサル
コトニ注意セサル可カラス
親權者ハ自己ノ專斷ヲ以テ爲ス懲戒ノ外向ホ進ミテ子ヲ懲戒場ニ入ル、コト
ヲ得可シ然レトモ之カ爲メニハ特ニ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス而シテ懲
戒場トハ民法ニ於テハ如何ナル場所ナルコトヲ定メスト雖モ刑法第七九條第
八〇條第八二條ニ所謂懲治場ノ如キモノヲ指シモノニシテ感化院ノ如キハ此中
ニ算セサルナリ何トナレハ懲戒場ハ子ノ罪惡ヲ懲戒矯正スル目的ヲ有スル場
所タル所ナリト雖モ感化院ハ之ト異ナリテ其目的事カ教育ニ屬スルモノニシ
テ之ニ入ル、カ如キハ別ニ裁判所ノ許可ヲ受クルノ必要アラサレハナリ而シ
テ懲戒場ニ入ルノ期間ハ法律ニ於テ之ヲ制限シ如何ナル場合ニ於テモ其最長

期ハ六ヶ月ヲ超過セサルコト、セリ又一旦裁判所カ定メタル期間ト雖モ父又ハ母ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ懲戒場ニ入ルハコトハ實際ニ於テハ殆ント刑罰ヲ行フニ等シク全ク子ノ自由ヲ束縛スルモノナレハ其期間長キニ失スルトキハ却テ害アルヲ以テ之カ期間ヲ制規シタルナリ故ニ若シ六ヶ月ノ入場ニテ尙ホ懲戒ニ不足ナリトセハ一旦其期間ヲ經過シタルトキ出場シタル上更ニ裁判所ノ許可ヲ得テ法ノ許セル範圍内ニ於テ入場セシムルモ可ナリ

子ヲ懲戒場ニ入ル可キ裁判所ノ決定ニ對シテハ其裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者即チ父又ハ母及ヒ子ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得非訟事件手續法第二〇條又檢事モ同シク抗告ヲ爲スコトヲ得同第九二條

營業ノ許可取消又ハ制限ノ權利

未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限ス

ルコトヲ得第八八三條人事編第二一六條第二二一條財產編第五五條第一項

此規定モ亦第八百七十九條ノ適用ニ過キサルモノニシテ子ノ職業ニ就クノ得失及ヒ其種類如何ハ尙ホ教育ニ於ケルト同シク重大ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ法律ハ親權者之ヲ許可可キモノトセリ一旦許可シタル職業ト雖モ親權者ニ於テ若シ其子カ之ニ堪ヘサルモノト認ムルトキハ之ヲ取消シ若クハ其範圍ヲ制限スルコトヲ得可キモノトセリ而シテ其職業ハ單ニ商法ニ於テ謂フ所ノ營業ノミヲ指スニ非スシテ廣ク職業ニ就クコトヲ云フ故ニ學校ノ教員ト爲ルモ又ハ醫師工匠ト爲ルモ此中ニ包含セララル、ナリ

民法第六條ハ未成年ノ子カ營業ヲ許サレタル場合ノ能力ヲ規定シ其何人カ之ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限ス可キヤハ之ヲ親族編ニ譲リタルモノニシテ本條カ即チ之ヲ規定セルナリ

此規定モ成年者ニハ關セス未成年者ノミニ適用ス可キコトハ論ヲ俟タサルナリ

子ノ財産ニ對スル權利

親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行為ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行為ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(第八八四條人事編第一五三條第一五四條)ハ是迄叙述シタル所ハ主トシテ子ノ身上ニ關スル規定ナリシカ是ヨリ說ク所本條以下第八九四條ニ至ル迄ハ專ラ其財産ニ關スルナリ而シテ財産ニ關スル親權ノ効力ハ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得可シ即チ一ハ財産ヲ管理スルノ權一ハ子ニ對スル法定ノ代理權ニシテ他ノ一ハ子ノ法律行為ニ同意ヲ與フルコト是ナリ

(一)子ノ財産ノ管理 管理ナル語辭ハ處分ナル語辭ニ對スルモノニシテ民法ノ總則編其他諸所ニ散見スル所ナレハ茲ニ之ヲ詳説ヲ爲ス必要ナシト雖モ財産ノ管理トハ其保存改良利用ヲ目的ト爲シ財産ノ利益ヲ圖ルコトヲ云フナリ未成年ノ子カ財産ヲ有スルトキハ自カラ之ヲ管理スル能力ヲ有セサルヲ以テ何人カ未成年ノ子ニ代リテ管理セサル可カラス是ヲ以テ法律ハ此管理權ヲ親權ヲ行フ者ニ與ヘタリ

ノ管轄ノ規定ニ抵觸シ我裁判所ノ管轄權ヲ侵害セタル判決ナリト謂ハサルヘカヲサレハナリ尙ホ一例ヲ示セハ我國ニ普通裁判權ヲ有スル夫カ其妻ト共ニ海外旅行中外國裁判所ニ離婚ノ判決ヲ求メ其外國裁判所ノ判決カ確定シタリトスルモ此判決ハ前述セル我人事訴訟手續法ニ違背シ我國裁判所ノ管轄權ヲ侵シタル判決ナルカ故ニ我國裁判所ハ此判決ニ基キ執行判決ヲ與フルヲ得サルモノトス

第四 敗訴ノ債務者カ本邦人ニシテ訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ或ハ又法律上ノ其助ニ依リ本邦ニ於テ送達ヲ受ケサルヲ以テ訴訟ニ應セサルシ場合ニ非サルコト

茲ニ呼出又ハ命令ト云ヘルハ例ヘハ我民事訴訟法ハ命令主義ヲ採リ辯論期日ニ付テノ呼出ハ裁判所書記正本ノ送達ヲ以テ之ヲ爲スモノトス第一六一條是レ命令ノ場合ナリ之ニ反シテ獨逸訴訟法ノ如キハ當事者呼出主義ヲ採リ期日ニ付テノ呼出ハ本案又ハ中間ノ争ニ付キ口頭辯論ヲ受ケント欲スル原告若タハ被告之ヲ爲ス獨逸訴訟法第一九一條是レ所謂呼出ノ場合ナリ此ノ如ク本邦

人タル債務者本人カ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受ケ若クハ彼我法律上ノ其助ノ手續ニ依リ其送達ヲ受ケタルコトナクシテ爲ニ應訴セテリシ場合ニ於テ言渡ラレタル外國裁判所ノ判決ニ執行判決ヲ與フヘカラスト規定セリ所以ハ他ナシ本邦人タル債務者カ懈怠ナクシテ防禦ヲ爲スコト能ハサル狀態ニ於テ下セル判決ヲ我國ニ於テ執行セシメ我國民ヲシテ之ニ屈服スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルカ如キハ國民保護ノ上ニ於テ洵ニ忍ブ可カラサルノ事態ナレハナリ

右債務者ノ本邦人タルト否トヲ判定スルハ其訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受ケヘキ時ニ於テスヘキハ法文上自ラ明カナリ故ニ其後ニ至リ國籍ヲ失ヒタルトキト雖モ前述ノ保護ヲ受クルヲ妨ケサルモノトス

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保シタルコト

條約ニ因リ相互ヲ保スルトハ一國ト一國カ條約ヲ締結スル場合ニ相互ニ其臣民ニ利益ヲ與フルコトヲ約定スルヲ謂フ蓋シ相互主義ハ國際法上ノ通則ナリ故ニ條約ヲ以テ相互ヲ保シ條約國ニ於テ我國ノ裁判所ノ下ニタル判決ノ執行

ヲ許サハ我國ニ於テモ其國ノ裁判所ノ下ニタル判決ノ執行ヲ許スヘク彼之ヲ許サレハ我亦之ヲ許サ、ルハ當然ナリ

以上五個ノ條件完備スルニアラサレハ裁判所ハ外國裁判所ノ判決ニ付執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下スヘキナリ

茲ニ一ノ疑問アリ即チ受訴裁判所ハ執行判決ヲ與フルニ當リテ判決ノ言渡後債權者ノ權利ニ變更アリシヤ否ヤヲ調査スルノ責任アリヤ否ヤ是ナリ今實際ニ徵スルニ債權者カ判決ノ確定シタル後辨濟ヲ受ケタルニ拘ハラス故意又ハ過失ニ因リ更ニ其債權ニ付強制執行ヲ求メ又ハ其確定シタル債權ヲ他人ニ讓渡シタルニ拘ハラス我手中ニ執行名義タル判決アルヲ寄賣トシテ強制執行ヲ求ムルコトアルハ往々觀ル所ナリ然ラハ則チ外國裁判所ノ確定判決ニ依リ認メラレタル權利ノ消滅變更シタルニ拘ハラス尙ホ執行判決ヲ求ムル者ナキヲ保ス可カラズ茲ニ於テ此問題ヲ生スルナリ予ノ信スル所ニ據レハ執行判決請求ノ受訴裁判所ハ外國裁判所ノ判決アリタル後債權者ノ權利ニ變更ヲ生シタルヤ否ヤヲ調査スル責任ナシ其理由ハ若シ右ノ如キ事實ヲ裁判所ニ於テ調査ス

ルノ責任アリトセハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ調査スヘキモノト謂ハサルヘカ
ラス然ルニ我民事訴訟法ハ刑事事ト異ナリテ不干渉主義ヲ採用シ職權ヲ以テ調
査スヘキ場合ハ特ニ明文ヲ設クルモ此問題ノ如キ場合ニ於テ職權ヲ以テ調査
スヘキ規定ヲ見ス是レ第一ノ理由ナリ次ニ執行判決ハ一ノ形式的判決ナリ即
チ請求事實ノ實體ニ入リテ審理ヲ爲サスシテ與フルモノナリ而シテ判決後權
利ノ變更ヲ生シタルヤ否ヤヲ調査スルハ事實ノ審理ニ屬ス是レ第二ノ理由ナ
リ是ニ由リテ觀レハ右ノ如キ調査ハ理論上執行判決ヲ付與スル裁判所ノ職權
ノ範圍ニ屬セスト斷定セサルヘカラサルナリ

右ノ問題ト關聯シテ尙ホ一ノ問題ヲ生ス即チ執行判決ノ受訴裁判所ハ外國判
決ノ認メタル原告ノ權利ニ變更ヲ生シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査スヘキモ
ノニアラストスルモ若シ執行判決ヲ求ムル訴ニ對シ被告ヨリ原告ノ權利ニ變
更ノ生シタルコトヲ理由トシテ抗辯ヲ提出シタルトキハ其權利ニ變更ヲ生シ
タルヤ否ヤノ點ニ付テ審理スヘキ責任アリヤ否ヤ是ナリ本問ニ對シテモ予ハ
右論決ト同シク裁判所ノ調査スヘキモノニアラスト信ス其理由ハ民事訴訟法

(イ) 關席判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シタル者カ辯論期日ヲ懈怠シタルトキハ
裁判所ハ關席判決ヲ以テ其故障ヲ棄却スヘキモノトス之ヲ新關席判決ト

稱ス此新關席判決ニ對シテハ故障ヲ爲スコトヲ許サス(民事訴訟第二六三條)

(ロ) 原狀回復ノ申立ヲ爲シタル者カ關席判決ヲ受ケタルトキハ其關席判決ニ
對シテハ故障ヲ爲スコトヲ得ス(民事訴訟第一七七條第二項)

此ノ如ク關席判決ニ對シ故障ヲ許サハルトキハ關席判決ヲ受ケタル者ハ辯論
期日ヲ懈怠セサルコトヲ理由トスルトキニ限り控訴スルコトヲ得

第二 第一審ノ判決ニ對スルコト

控訴ハ凡ヘテ第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ其判決ノ
性質若クハ訴訟物ノ價額ニ依リ制限セラルヘコトナシ故ニ區裁判所ノ爲メタ
ル所ノ第一審判決地方裁判所ノ爲シタル第一審判決ニ對シテハ何レモ控訴ス
ルコトヲ得ルモノナリ然レトモ第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲サントスルニハ其
第一審判決ハ控訴人ニ權利上ノ不利益ヲ被ラシメタルモノナラサルヘカラス
換言スレハ控訴人カ控訴ヲ爲スニ付キ權利上ノ利益ヲ有セサルヘカラス是ノ

條件タルヤ訴訟法ニ明文ナシト雖モ控訴ヲ許シタルノ主義ヨリ考フルトキハ自ラ明カナルヘシ何トナレハ民事訴訟法ニ於テ控訴ヲ許シタルハ主トシテ當事者ノ利益ヲ謀リタルモノナルカ故ニ當事者カ控訴ヲ爲スニ付キ何等ノ利益ナキ以上ハ其當事者ハ控訴ノ方法ヲ利用スルコトヲ得サルハ當然ナリ例ヘハ第一審裁判所ニ於テ原告ノ請求ノ如ク判決シタルトキハ原告ハ其判決ニ對シ控訴スルコトヲ得サルヘシ故ニ當事者ニ於テ請求通りノ判決ヲ受ケタルニ拘ハラス其申立ヲ擴張スル爲メ控訴ヲ爲スカ如キハ法律上之ヲ許サルモノトス

以上述ヘタル如ク控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ中間判決又ハ決定ニ對シテハ控訴スルコトヲ得サルヤ明カナリ然レトモ其裁判ニ對シ控訴スルコトヲ得ストハ單ニ其裁判ニ對シ獨立シテ控訴スルコトヲ得スト云フニ止マリ必シモ上級裁判所ノ審査ヲ受ケルコトヲ得サルニ非サルノミナラス終局判決ニ對シ控訴アリタル以上ハ第一審裁判所カ終局判決以前ニ爲シタル裁判ハ凡ヘテ控訴審査ノ判斷ヲ受クヘキモノナリ

但終局判決以前ノ裁判ト雖モ訴訟法ニ於テ不服ヲ申立ルコトヲ得スト明記シタルモノ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ルコトヲ得ルモノ及ヒ控訴申立前ニ於テ既ニ確定セル裁判第二〇七條第二二八條ニ所謂上訴ニ關シテハ終局判決ト看做シタル中間判決ニシテ確定シタルモノニ對シテハ控訴審査ヲ受ケルコトヲ得サルモノトス(民事第三九七條)

第二節 控訴ノ方式及其期間

控訴ヲ提起スルニハ法定ノ事項ヲ具備シタル控訴狀ヲ法定ノ期間内ニ控訴裁判所ニ提出スヘキモノトス而シテ其控訴狀ニ記載スヘキ事項二ツアリ左ノ如シ

(一) 控訴セラル、判決ノ表示

(二) 控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

控訴セラル、判決ノ表示ハ要スルニ如何ナル判決ニ對シ覆審ヲ求ムルヤヲ明ニセントスルニ在リ故ニ表示ノ方法ハ民事訴訟法ニ規定ナシト雖モ今日一般ニ行ハル、表示ノ方法ハ判決ヲ爲シタル裁判所判決ヲ受ケタル當事者ノ氏名

判決言渡ノ年月日、記録ノ番號並ニ判決ノ趣旨ヲ記載シテ之ヲ爲ス然レトモ其表示ノ方法ハ必スシモ前記ノ事項ヲ記載スルヲ以テ足レリトスルニ非ス或場合ニ於テハ前記ノ事項ヲ悉ク記載スルモ尙其判決ノ表示充分ナラサルコトアルヘク又或場合ニハ其一二ノ事項ヲ省クモ充分ナルコトアルヘシ要スルニ控訴セラル、判決ヲ控訴狀ニ表示セラレタルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ控訴裁判所ノ自由ノ判定ニ依ラサル可ラサルナリ

右ノ外控訴狀ニハ控訴スル旨ノ陳述ヲ記載スルコトヲ要ス此ノ要件ヲ具備スル以上ハ其書面タルヤ控訴狀トシテ適法ノモノトス夫ノ當事者ノ表示第一審裁判所ノ表示ノ如キハ必要事項ニアラス獨逸民事訴訟法モ大略同一ノ規定ヲ設ケアリ獨逸民事訴訟第四七九條只一ノ異ル所ハ獨逸民事訴訟法ニ於テハ前掲ニ要件ノ外口頭辯論ノ爲メ相手方ヲ控訴裁判所ニ呼出スコトヲ求ムル旨ノ記載ヲ必要トセリ蓋シ獨乙民事訴訟法ノ規定ニ依レハ送達ハ凡テ當事者ニ於テ直接ニ之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ訴又ハ控訴提起ノ場合ニ於テモ訴狀又ハ控訴狀ヲ相手方ニ送達シタル時ニ於テ其効力ヲ生スルモノト

シタル行爲ヲ取消スカ如キハ斷シテ謂ナシ舊民法ニ於テ之ヲ採用セザリレハ固ヨリ當然ノ事ナリトス

新民法ニ於テハ自治産ノ制ヲ認メス是レ予ノ遺憾トスル所ナリ

第二 禁治産者

舊民法ニ依レハ禁治産者ニ二種アリ即チ一ハ民事上ノ禁治産者ニシテ他ノ一ハ刑事上ノ禁治産者是ナリ而シテ民事上ノ禁治産者トハ精神ノ喪失ニ基ク無能力者ヲ謂ヒ刑事上ノ禁治産者トハ刑罰ノ結果トシテ無能力ト爲ル者ヲ謂フ惟フニ往時ニ於テハ刑事上ノ禁治産者ヲ認ムルノ必要アリシカ如シト雖モ既ニ今日ニ於テハ其必要ナキコト殆ト論ヲ待タス新民法ニ於テハ刑事上ノ禁治産者ナルモノヲ認メス尙ホ民法施行法第十四條ヲ以テ刑法及ヒ其附屬法中禁治産ニ關スル規定ヲ削除セリ故ニ新民法ニ於テハ禁治産者ハ單ニ精神病ニ基ク無能力者ノミナリトス

凡ソ精神病ニハ其程度アリテ重キモノハ常ニ人事ヲ辨セスト雖モ其輕キモノニ至リテハ時々精神ノ錯亂スルコトアルニ止マリ平生ニ於テハ常人ニ異ナル

コトナシ而シテ其如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス精神喪失ノ當時ニ爲シタル法律行為ハ總テ無効ナリトス何トナレハ法律行為ハ意思ヲ以テ第一ノ要素トス然ルニ此場合ニ於テハ意思ナキヲ以テナリ此點ニ付テハ毫モ疑ヲ容レスト雖モ或行為ヲ爲シタル場合ニ於テ當事者カ其心神喪失ノ事實ヲ證明スルハ極メテ困難ニシテ事實上心神喪失ノ當時ニ爲シタル行為モ遂ニ之ヲ證明スルコトヲ得スシテ止ムコトアリ又經令之ヲ證明スルコトヲ得ルモ全ク人事ヲ辨セザリシカ又ハ精神ノ聊カ錯亂シタルニ過キサリシカハ斯道ノ専門家ト雖モ鑑別ニ苦シムコトアリ次ニ又心神喪失者ニ對シ法律カ別段ノ保護ヲ爲サスシテ之ヲ放置スルトキハ人々危ミテ之ヲ取引ヲ爲ス者ナク又本人モ通常意思ヲ發表スルコト能ハサルカ故ニ一切ノ法律行為ニ因リテ利益ヲ得ルコト能ハス又經令此ノ如キ程度ニ在ラス多少心神ノ錯亂シタルニ止マル者ニ在リテモ利害ヲ辨セスシテ濫ニ法律行為ヲ爲シ爲ニ倒産ヲ招クコトナシトセス又或場合ニ於テハ心神喪失者タルヤ否ヤ普通人ノ眼ヲ以テ判別シ難キコトアリ隨テ通常人ト思惟シ之ヲ取引ヲ爲シタル後ニ至リ當時心神喪失者タリシコトヲ證セラレ

ンカ先キノ行為ハ遂ニ無効ニ歸シ殊ニ代理人ニ對シテ取引ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ其本人ノ心神喪失者タルヤ否ヤヲ知ルコト最モ困難ナルカ爲メ意外ノ損失ヲ被ムルコト多カルヘシ此ノ如キ事情アルヲ以テ立法者ハ此等ノ點ニ注意シ心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ之ヲ禁治產者トシ自ラ一切ノ法律行為ヲ爲スノ能力ナキモノトシ單ニ心神耗弱ナリト認ムヘキ者ハ之ヲ準禁治產者ト爲シ或重大ナル行為ノミニ關シ獨立シテ之ヲ爲スノ能力ナキ者トシ其他心神ノ狀況普通人ト較ヤ異ナル者ニ付テハ全ク之ヲ事實問題トシ若シ行為ノ當時心神ヲ喪失シタルコトノ證明アルニ於テハ其行為ハ無効ナルモノトセリ精神常ニ錯亂セル者及ヒ偶々本心ニ復スルコトアルモ其錯亂セルコト寧ロ常態タル者ハ裁判所ノ決定ヲ以テ禁治產者ナリト宣告スルコトヲ得ヘシ而シテ之ニ關スル手續ハ特別法人事訴訟手續法第三章ノ規定スル所ナリト雖モ其宣告ハ如何ナル人ヨリ之ヲ請求スルヲ得ルカニ付テハ民法ニ於テ之ヲ規定スルノ必要アリ即チ左ノ如シ

第一 本人。精神病者タル本人カ自己ノ禁治產ノ宣告ヲ請求スルカ如キハ道

理上有ルヘカラサル事ノ如シ蓋シ精神病者中精神常ニ錯亂シ絶エテ本心ニ復スルコトナキ者ニ在リテハ自ラ此ノ如キ請求ヲ爲スコト斷シテアルヘカラスト雖モ其時々本心ニ復スルコトアル者ニ至リテハ自ラ禁治産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルヘカラスト即チ其本心ニ復シタル時ニ方リ自ラ以爲タ己レハ時々精神ノ錯亂スルコトアリ若シ精神錯亂ノ時ニ際シ事ノ利害得失ヲ辨セスシテ他人ト法律行爲ヲ爲スコトアリトセハ不慮ノ損害ヲ被フルコト言フヲ竣タス如カス豫メ禁治産者ト爲リテ後見ニ服センニハト仍テ自ラ禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトアルヘシ是レ法律カ本人ヲ以テ請求權ヲ有スル者ノ中ニ數ヘタル所以ニシテ外國ノ法律ニ於テハ多クハ此ノ如キ場合ノ實際ニ稀ナルヲ理由トシテ之カ規定ヲ置カスト雖モ一ノ缺典タルコト固ヨリ論ヲ待タス

第二 配偶者 配偶者ノ一方ハ他ノ一方ト殆ト一身同體ノ如キモノニシテ互ニ利害ヲ感スルコト實ニ切ナルモノアリ殊ニ其間ニ子アルトキハ其父又ハ母カ精神錯亂セル爲メ家産ヲ盡盡シ其子ノ養育教育ヲ完ツスル能ハサルコ

トナシトセス就中我邦ノ如ク家ナルモノヲ重ンスル風習ノ存スル國ニ於テハ一家倒産ノ憂ヲ防クハ最モ必要ニシテ配偶者ノ一方ノ賦視スヘカラサル事ニ屬ス是レ配偶者ヲシテ禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得セシメタル所以ナリ

第三 四親等内ノ親族 是レ亦前項ト其理由ヲ同シウス而シテ此ニ所謂四親等トハ親族編ニ規定スル如ク其禁治産ノ宣告ヲ受クル者ヨリ數ヘテ四段ノ關係アル者ヲ云ヒ例ヘハ高祖父母及ヒ玄孫ハ直系親ニ於ケル四等親ニシテ從兄弟姉妹及ヒ甥姪孫ハ傍系親ニ於ケル四等親ナルカ如シ且ツ親族トハ血族及ヒ姻族ヲ併稱スルモノナルカ故ニ其四親等内ノ姻族モ亦本項ノ親族ニ屬スルコト勿論ナリト雖モ姻族ハ三親等ニ限リテ親族ト爲ス七二五條ヲ以テ勢ヒ之ヲ三親等ニ限ラサルヘカラスト而シテ其親等ヲ定ムルニハ其配偶者ヨリノ世數ヲ算フルコト血族ノ場合ト同シ即チ妻又ハ夫ノ兄弟ハ二等親ニシテ其伯叔父母ハ三等親ナリトス

第四 戸主 戸主カ禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ルハ家族制度ヲ認ムル

當然ノ結果ニシテ其必要ナルコト言フヲ待タズ
第五 後見人 後見人ハ未成年者ヲ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ狀態ニ在ル場合

ニ於テ未成年者ヲ保護スルニ最モ適當ナル地位ニ在ルノミナラス其未成年者カ現在如何ナル狀況ニ在ルカヲ知ル者モ亦後見人ニ若ク者ナシ是レ後見人ヲ此ニ加ヘタル所以ニシテ舊民法ニ之ヲ見サリシハ缺典ト謂フヘシ

第六 保佐人 保佐人ハ準禁治産者カ更ニ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ狀態ニ在ル場合ニ於テ之ヲ保護スルニ最モ適當ナル地位ニ在ル者ナリ然ルニ舊民法ニ於テ之ヲ揭ケサリシハ前項ト同シタ一ノ缺典ナリトス

第七 檢事 檢事ハ公益ノ保護者ナルカ故ニ一方ニハ癡癲者カ公安ヲ害スルコトアル場合ニ於テ社會ノ公益ヲ保護スル爲メ而シテ他ノ一方ニ於テハ直接ニ社會ノ一員タル癡癲者ヲ保護スルト同時ニ間接ニ公益ヲ保護スル爲メ其禁治産ノ宣告ヲ請求スルニ外ナラス
未成年者ヲ禁治産者ト爲スコトアルハ右ニ述ヘタル所ノ如シ然レトモ之ヲ禁治産者ト爲スノ必要アリヤ否ヤニ付テハ多少疑ヲ抱ク者アルカ如シ而シテ外

國ニ於テモ之ニ關スル問題ハ學者ノ喧シク論スル所ニシテ或國ノ如キハ特ニ明文ヲ以テ禁治産者ト爲ルヘキ者ハ必ラス成年者ナルコトヲ規定セリ蓋シ未成年者モ後見ニ服シ又其獨斷ニテ爲シタル行爲ハ後日之ヲ取消スコトヲ得ル等禁治産者ト異ナル所ナシト雖モ未成年者モ亦之ヲ禁治産者ト爲ス必要アリ
(一)未成年者ノ行爲ハ其成年ニ達シタル後五年ヲ經過スルトキハ之ヲ取消スコトヲ得スト雖モ禁治産者ノ行爲ハ禁治産ノ取消サレタル後禁治産者カ其行爲ヲ覺知シタルトキヨリ五年ヲ經過スルニアラサレハ取消權ヲ失フコトナシ故ニ其取消權ノ期間ニ於テ大ナル差異アリ(二)四條一、二、六條(三)若シ未成年ノ間ニ禁治産者ト爲サ、ルトキハ其者カ成年ニ達スレハ一時能力者ト爲ルカ故ニ更ニ禁治産ノ宣告ヲ受クルマテハ無能力者タル保護ヲ受クルコトヲ得ス此他未成年者ト禁治産者トハ單ニ權利ヲ得義務ヲ免ルヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ルト否トノ別アリ(四條九條舊民法ニ於テハ右ノ外尙ホ二個ノ差異アリ即チ未成年者ハ缺損アルニアラサレハ其行爲ヲ取消スコトヲ得ルト本則トスレトモ禁治産者ハ其行爲ヲ取爲スニ缺損アルコトヲ要セス又自治産未成年者ハ自由

ニ管理行為ヲ爲スコトヲ得ルモ禁治產者ハ之ヲ爲スコトヲ得サル等ノ區別アリ故ニ舊民法ノ下ニ於テハ未成年者ヲ禁治產者トスルノ必要一層大ナル者アリシヲ知ルヘシ

以上ハ民法第七條ノ規定スル所ニシテ曰ク

心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人配偶者四親等内ノ親族戸主後見人保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

禁治產ノ効力ニアリ

第一 禁治產ノ目的ハ禁治產者ノ身體財産ヲ保護監督スルニ在リ故ニ之カ保護監督ノ任ニ當ル者ナカルヘカラス法定代理人是ナリ名ケテ後見人ト云フ而シテ後見人ノ權限及ヒ職務ノ如キハ親族編ノ規定スル所親族編第六章ニシテ本編ニ於テハ單ニ之ヲ後見ニ付スヘキコトヲ規定セリ即チ第八條ニ曰ク

禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス

第二 前述ノ如ク心神喪失者ノ爲シタル行為ハ意思ナキカ故ニ無効ナリ然レ

トモ其意思ナキコトヲ證明スルハ頗ル難キ所ニシテ且ツ其喪失ノ程度ハ容易ニ之ヲ判知スルコトヲ得ス隨テ此等ノ者ヲシテ一般ノ規定ニ依ラシムルトキハ往々ニシテ其保護ヲ缺クコトアルヲ免レス故ニ法律ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ノ爲シタル行為ハ總テ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノトシ縱令心神ヲ喪失セザリシ反證アルモ以テ此取消權ヲ左右セラルルコトナク禁治產者及ヒ後見人ハ唯其禁治產ノ宣告ヲ受ケタルコトヲ證スレハ足レリトセリ即チ第九條ニ曰ク

禁治產者ノ行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

然リト雖モ禁治產者カ後見人ノ同意ヲ得テ爲シタル行為ハ固ヨリ有効ニシテ唯後見人ハ其權限内ニ於テ同意スルコトヲ要スルノミ之ニ反シ禁治產者カ其行為ヲ爲シタル當時全ク心神ヲ喪失セシトキハ縱令後見人ノ同意アルモ其行為ハ有効タルコトヲ得ス是レ法律行為ノ要素タル意思ヲ缺クヲ以テナリ然レトモ此ノ如キ事實ハ實際太タ稀ナルヘシ何トナレハ禁治產者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナルカ故ニ他人カ之ト取引ヲ爲スカ如キコトハ殆ト

アルヘカラサレハナリ此ニ一ノ疑問アリ即チ行爲ノ當時禁治産者カ心神ヲ喪失セシ證據アルトキハ單ニ禁治産者及ヒ後見人ヨリ之ヲ取消シ得ルニ止マルカ將タ絕對ノ無効即チ當事者双方ヨリ其無効ヲ主張スルコトヲ得ルカ此點ニ付テハ外國ニ於テモ種々議論アル所ナリト雖モ予ハ意思カ法律行爲ノ要素タル以上ハ意思ナキ行爲ハ絕對的無効ナリト信ス第九條ニ禁治産者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得下アルハ意思アル場合ヲ想像シタルモノニシテ其意思ヲ缺如スル場合ハ一般ノ原則ニ依リ全ク無効タラサルヘカラス隨テ意思ナキコトノ證明セラレタル以上ハ其行爲ハ當然無効ニシテ更ニ之ヲ取消スコトヲ要セサルナリ而シテ此取消ト無効トヲ區別スルノ實益ハ一ハ取消シ得ヘキ行爲ハ一定ノ期間之ヲ取消サルコトキハ其行爲ハ當然有効ノ行爲ト爲ルモ無効ノ行爲ハ元來成立セサルモノナルカ故ニ取消權ノ時効ニ罹リタル後ト雖モ尙其無効ヲ主張スルコトヲ得ヘク又取消權ハ當事者ノ一方ヲ保護スルカ爲ニ設ケタルモノナルカ故ニ單ニ其一方ヨリ之ヲ主張スルコトヲ得ルニ止マルモ無効ノ行爲ハ双方ヨリ之ヲ主張スルコトヲ得ル等ノ

點ニ在リ而シテ此双方ヨリ無効ヲ主張スルコトヲ得ルノ點ハ禁治産者ニ取リテ稍ヤ不利益ナルカ如シト雖モ心神ノ喪失ヲ證明スルコトハ甚タ困難ナルカ故ニ實際ニ於テハ敢テ弊害ナカルヘシ是レ恰モ幼兒カ爲シタル行爲ハ意思ナキカ爲ニ全ク無効ニシテ幼者ノミナラス相手方ヨリモ其無効ヲ主張スルコトヲ得ルト異ナルコトナシ

禁治産ノ消滅ハ禁治産ノ原因ノ止ムニ因リテ生ス蓋シ禁治産ハ心神喪失ノ常況ニ在ルカ故ニ之ヲ宣告セラル、モノナルヲ以テ其心神喪失ノ常況ニ在ラサルニ至ルトキハ其消滅ヲ來サ、ルヲ得ス而シテ禁治産ノ宣告ハ裁判所ノ爲ス所ナルカ故ニ之ヲ取消ヲ爲ス者モ亦裁判所ナラサルヘカラス且ツ其取消ヲ請求スル者モ宣告ノ請求ト同一ノ人ヨリスベキハ當然ノ事ナリトス即チ第十條ニ曰ク

禁治産ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ揭ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス

此ノ如ク禁治産ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ又其取消ヲ請求スルコトヲ

得ヘシト雖モ保佐人ノミハ實際其適用ナカルヘシ何トナレハ準禁治產者カ保
 出人又ハ其他ノ請求ニ因リテ禁治產ノ宣告ヲ受ケタトキハ既ニ保佐人ナク後
 見人之ニ代リテ存スヘクレハナリ

第三 準禁治產者

禁治產者ハ全ク心神ヲ喪失スルヲ以テ原則トシ時々本心ニ復スルハ寧ロ例外
 ニ屬スト雖モ準禁治產者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ非ス唯精神ノ健全ナラ
 ナル者ナリ而シテ精神ニ異狀ナキモ五官ノ一ヲ失ヒタル者ノ如キハ其智識常
 人ニ及ハサルヲ常トシ動モスレハ他人ノ爲ニ欺カルコトアルカ故ニ精神不
 健全ノ者ト同シク法律ノ保護ヲ與フルノ必要アリ又浪費者ノ如キモ或ハ教育
 ノ如何ニ原因スルモノアリト雖モ多クハ精神病者ニシテ普通ノ智識ハ常人ニ
 劣ル所ナキモ理財ノ點ニ於テハ大ニ缺クル所アル者ナリ隨テ他ノ精神病者ト
 等シク法律ノ保護ヲ與ヘサルヘカラス現ニ羅馬法ノ如キハ心神喪失者ハ之ヲ
 禁治產者トセスシテ却テ浪費者ヲ禁治產者ト爲シ今日ニ於テモ之ヲ禁治產者ト
 爲ス國多シ即チ獨逸法系ニ屬スルモノハ概テ然ラサルハナシ唯リ佛法系ニ屬

スル法律ハ心神喪失者ニ限リ之ヲ禁治產者ト爲シ其他ハ總テ準禁治產者ト爲
 セリ(西洋ニ於テハ準禁治產者又ハ一部ノ禁治產者ト譯スヘキ文字ヲ用フレト
 モ日本語トシテハ準禁治產者ノ文字或ハ穩當ナラシカ)舊民法人事編第二百三
 十二條第一項ニ於テハ「心神耗弱者聾啞者盲者及ヒ浪費者ハ準禁治產者ト爲
 テ之ヲ保佐ニ付スルコトヲ得」規定シ新民法第十一條ニ於テモ略之ト同一ノ
 規定ヲ爲セリ曰ク「心神耗弱者聾者啞者盲者及ヒ浪費者ハ準禁治產者トシテ之ニ保佐人ヲ付ス
 ルコトヲ得」
 隨テ兩者ノ規定殆ト異ナル所ナク唯舊民法ハ聾啞者ト規定シタルモ新民法ハ
 聾者啞者ヲ區別セルノ差アルノミ蓋シ舊民法ノ如ク聾啞者ト稱スルトキハ殆
 ト生レナカラニシテ耳聞クコトヲ得ス口言フコトヲ得サル者ノミヲ指シ狭キ
 ニ失スルカ故ニ新民法ハ之ヲ聾者啞者ノ二分ナシ且ツ盲者モ此等ノ者ト殆ト
 選フ所ナキカ故ニ等シク之ヲ準禁治產者トスルコトヲ得ヘキモノトセリ然レ
 トモ聾者啞者及ヒ盲者ト雖モ必スシモ準禁治產者ト爲サルヘカラサルニ非

ス唯之ヲ準禁治產者ト爲スコトヲ得ルノミ
準禁治產者ハ禁治產者ニ比シ其智力ノ優レルコト言フヲ待タサルカ故ニ法律
上ノ能力モ亦其程度ヲ異ニセサルヘカラス即チ左ノ如シ
第一 禁治產者ハ自ラ法律行爲ヲ爲サ、ルヲ原則トス之ニ反シ準禁治產者ハ
自ラ法律行爲ヲ爲スヲ原則トシ唯稍ヤ重大ナル行爲ニ限リテ保佐人ノ同意
ヲ得ルコトヲ要ス
第二 禁治產者ハ一切ノ法律行爲ニ付キ法定代理人之ヲ代理ス隨テ總括的ノ
無能力者ナリ(財産ニ就テ言フ之ニ反シ準禁治產者ハ特定メタル法律行爲
ニ限リ獨斷ニテ之ヲ爲スコトヲ得ス其他ノ行爲ハ總テ獨斷ニテ之ヲ爲スコ
トヲ得即チ限定的ノ無能力者ナリ
然ラハ準禁治產者カ獨斷ニテ爲スコトヲ得ル行爲ハ如何ナル行爲ナルカ舊民
法ハ自治產未成年者ト略同一ノ無能力者ト爲セリ人事編二三三條即チ人事編
第二百十八條ニ於テ「自治產ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ元本ヲ
領收スルコトヲ得」規定シ第二百十九條ニ於テ「第九十四條ニ掲ケタル行

爲ニ付テハ自治產ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ
得」規定セリ而シテ「第九十四條ニ於テハ」左ニ掲ケタル行爲ニ關シテハ後見
人ハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス第一元本ヲ利用シ又ハ借財ヲ爲スコト第
二不動產及ヒ重要ナル動產ヲ讓渡シ之ニ物權ヲ設定シ又ハ之ヲ取得スルコト、
第三動產、不動產ニ係ル訴訟又ハ和解仲裁ニ關スルコト、第四相續遺贈者クハ贈
與ヲ受諾シ又ハ拋棄スルコト、第五新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト、第六財
産編「第九十九條ニ定メタル期間ヲ起ユル貸貸ヲ爲スコト」アリ而シテ「第二
百三十三條ニハ」第二百十七條乃至第二百二十條ノ規定ハ之ヲ準禁治產者ニ適用
ス下アルカ故ニ右自治產未成年者ノ能力ニ關スル規定ハ同時ニ準禁治產者ノ
能力ニ關スル規定ナリ新民法ハ自治產未成年者ヲ認メサルカ故ニ其第十二條
ニ於テ準禁治產者ニ關シ特ニ其能力ヲ規定セリ而シテ殆ト舊民法ト同一ナリ
トス曰ク

「準禁治產者カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要
ス」

一、元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト、
 二、借財又ハ保證ヲ爲スコト、
 三、不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲
 スコト、
 四、訴訟行爲ヲ爲スコト、
 五、贈與和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト、
 六、相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト、
 七、贈與若クハ遺贈ヲ拒絶シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコ
 ト、
 八、新築改築増築又ハ大修繕ヲ爲スコト、
 九、第六百二條ニ定メタル期間ヲ起ユル賃借ヲ爲スコト、
 其判所ハ場合ニ依リ準禁治產者カ前項ニ揭ケタル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐
 人ハ同意アルモノヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得、
 前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スルコトヲ得、

產ナル文字ヲ或ル場合ニ於テハ權利義務ヲ包括シタル名稱トシテ使用シ又或
 場合ニ於テハ之ヲ權利ノミノ包括の名稱トシテ之ヲ使用シタル所アリテ一様
 ナラスト雖モ共有ナル文字ハ常ニ權利ニ對シテ之ヲ用フルモノニシテ義務ニ
 關シテハ之ヲ用ヒサルヲ常トスルカ故ニ義務ハ第一千二條ノ規定ニ關係ナキモ
 ノト云ハサルヘカラス隨テ義務ハ共同相續人間ニ不可分ナルモノニアラスシ
 テ相續ト同時ニ當然分割セラルヘキモノト思考ス第一千三條ニ依レハ各共同相
 續人ハ其相續分ニ應ジテ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ストモ權利ハ相續分ニ
 依テ定マルカ故ニ相續分ニ應ジテ權利ヲ承繼スルコトハ更ニ法律ニ於テ規定
 スルノ必要ナシ唯義務ノ分擔ニ關シテハ第一千三條ノ如キ規定ヲ必要トス即チ
 義務モ亦相續分ニ應ジテ分ル、モノナリ而シテ權利ハ分割セラル、迄ハ共同
 相續人カ其相續分ニ應ジテ之ヲ共有スト雖モ義務ハ相續分ノ割合ニ因リテ當
 然共同相續人間ニ分擔セラル、モノナリ佛國民法ニ於テハ各共同相續人間ニ
 於テハ其相續分ニ應ジテ被相續人ノ債務ヲ負擔スルモノナレトモ債權者ニ對
 シテハ各共同相續人ハ全部ニ付キ被相續人ノ債務ヲ辨濟ヲ爲サハルヘカラサ

ルコトヲ定メタリ即チ相續財産ニ屬スル義務ヲ不可分ノモノト爲シ共同相續人ヲレテ連帶(全部)シテ其債務ノ履行ヲ爲サシムルモノナリ我新民法ハ此主義ヲ採ラスシテ義務ハ相續分ニ比例シテ分割セラルヘキモノトセリ故ニ被相續人カ他人ト連帶シテ債務ヲ負擔シ居レル場合ノ如キハ其債權者ハ被相續人ニ對シテハ債權ノ全部ニ付キ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得タリシト雖モ相續人ニ對シテハ各自ノ負擔部分以外ニ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス元來當事者間ニ於テハ債務ノ履行ハ不可分ノモノナルカ故ニ債權者ハ被相續人ニ對シテハ常ニ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノナルニ一朝被相續人カ死亡シタレハトテ其債權ノ實行分割セラルニ至ルハ債權者ノ利益ノ保護完カラサルニ似タリ然レトモ相續人ニシテ全部ノ辨濟ヲ爲サハカラストセハ其全部ノ辨濟ヲ爲シタル相續人ハ他ノ共同相續人カ無實力ト爲リタル場合ニハ爲ニ時トシテ甚シキ損失ヲ被ルコトアルヘキナリ此ノ如ク二者共ニ同一ニ之ヲ保護スルコト能ハサルカ故ニ法律ハ死亡ノ如キ人爲ニ生シタルニ非サル出來事ノ結果ハ止ムヲ得ス債權者ヲシテ之ヲ受ケシメ相續人ニ對シテハ多

數債務者ノ場合ニ於ケル原則タル債務ノ分擔ナルモノニ適用ヲ受ケシムルヲ以テ相當ナリト認メタリ

第二款 相續分

第一 相續分ノ割合

相續人一人ナルトキハ被相續人ノ遺産ハ總テ之ニ歸スルモノナルカ故ニ此場合ハ相續分ノ割合ナル問題ヲ生セスト雖モ直系卑屬又ハ直系尊屬ノ相續スル場合ハ相續人ノ數二人以上アルコトヲ得ルカ故ニ此場合ニ於テハ其各自ハ如何ナル割合ニテ相續スヘキヤヲ規定スルノ必要アリトス第千四條ハ此場合ニ關スル規定ヲ設ケ同順位ノ相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモノトセリ此規定ハ獨リ我新民法ニ於テ特有ノモノニ非スシテ凡ソ多數相續制ヲ採レル諸國立法例ハ殆ト皆之ト同一ノ規定ヲ有ス蓋シ相續分ハ被相續人カ其各相續人ヲシテ相續セシメント欲セシ所ニ因リ之ヲ定ムヘキコト極メテ相當ニシテ而シテ同順位ノ各相續人ニ對シテハ被相續人ノ情愛ニ於テ差異アルヘキモノニ非サルカ故ニ其相續分モ亦同シカルヘキハ恰モ被相續人ノ意思

ニ合致シタルモノト云フコトヲ得レハナリ故ニ例ヘハ三千圓ノ價額アル遺産
ニ對シ卑屬親三人ニテ相續セリトセハ各千圓ヲ得ヘタ父母之ヲ相續セリトセ
ハ各千五百圓ヲ得ヘキナリ
右ノ原則ニハ一ノ例外アリ遺産相續人タル直系卑屬中嫡出子ト庶子又ハ私生
子トアル場合はナリ此場合ニ於テハ各直系卑屬ハ均一ノ相續分ヲ有セスシテ
庶子又ハ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一タルヘキモノトス故ニ
三千圓ノ遺産ニ對シテ一人ノ嫡出子ト一人ノ庶子トニテ相續スルトキハ嫡出
子ノ相續分ハ二千圓ニシテ庶子ノ相續分ハ千圓ト爲ルヘク二人ノ嫡出子ト二
人ノ庶子トニテ相續スルトキハ嫡出子ノ相續分ハ各千圓ニシテ庶子ノ相續分
ハ各五百圓タルヘキナリ佛蘭西伊太利等ノ民法ニ於テハ私生子ノ相續分ハ其私
生子カ嫡出子タランニハ受ケタルナルヘシトスル相續分ノ三分ノ一又ハ二分
ノ一ヲ以テ其私生子ノ相續分ト爲スヘキコトヲ定ムルカ故ニ佛民法ニ依リテ
前ニ舉ケタル第一ノ例ノ場合ニ於ケル相續分ヲ定ムルトキハ嫡出子ノ相續分
ハ二千五百圓ニシテ私生子ノ相續分ハ五百圓ト爲ル又第二ノ例ニ於テハ嫡出

子ハ千二百五十圓ニシテ私生子ハ二百五十圓ト爲ルヘキナリ然ルニ我民法ハ
庶子又ハ私生子ノ相續分ハ其者等カ嫡出子タランニハ受ケタル相續分ノ
二分ノ一トセスシテ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トセルヲ以テ庶子又ハ私生子
ノ相續分ハ常ニ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一ニ相當セサルヘカラス故ニ右例示
シタル如ク嫡出子ト庶子又ハ私生子トノ相續分ヲ算出スルニハ一個ト二分ノ
一トノ比例ニ因リテ遺産ノ額ニ按分シテ之ヲ定ムヘキナリ然リ而シテ何故ニ
庶子又ハ私生子ハ嫡出子ニ比シテ其相續分尠ナカルヘキモノナリヤ之ヲ説明
スルコト容易ニ非サルナリ或ハ私生子ノ相續分ヲ嫡出子ト同一ナラシムルハ
正當ノ婚姻ニ因リテ生レタルニ非サル者ノ利益ヲ保護スルコト厚キニ失スト
爲ス者アルヤモ知ルヘカラスト雖モ然レトモ私生子ト雖モ被相續人ノ實子タ
ルニ於テハ嫡出子ト異ル所ナシ等シク實子ナル者ニ對シテ相續ノ權利ヲ均等
ナラシム何ソ利益ノ保護厚キニ失スト言フヲ得ンヤ或ハ私生子ハ正當ノ婚姻
ニ因リテ生レタルモノニアラサルカ故ニ之ニ正當ノ婚姻ニ因リテ生レタル者
ト同一ノ權利ヲ有セシムヘカラスト言フ者アラシ然レトモ父母ノ婚姻アリタ

ルニ因リテ生レタルト否トハ生子ノ與リ知ル所ニアラス生子ノ關與セサル事實ノ爲ニ其生子ノ權利ニ異同ヲ生セシムルハ充分ノ理由アルヲ知ラス或ハ又法律ハ正當ノ婚姻ニ因ルノ外生子アルコトヲ好マス而シテ正當ノ婚姻以外ニ生レタル子ニ十分ノ權利ヲ與ヘサルコトハセハ父母タル者ハ其生子ノ此ノ如キ憐ムヘキ境遇ニ遭遇スヘキヲ懷ヒ自然正當ノ婚姻以外ニ生子ヲ舉クルカ如キコトナキニ至ルヘシ是レ法律カ私生子ノ權利ヲ嫡出子ヨリ尠ナカラシメタル所以ナリト論スル者アリ然レトモ是又父母ノ過失ヲ責メンカ爲メ其子ヲ酷待スルモノニシテ其之ヲ責ムルノ所ヲ失スルモノニ非スシテ何ソヤ或ハ又是レ古來ノ慣例ナリト云ヒ以テ法律ノ規定ヲ辯護セント試ムル者アリ家督相續ニ關シテハ嫡出子ノ庶子私生子ニ先ツハ或ハ古來ノ慣例ナリト云フヲ得然レトモ遺產相續ニ關シテハ遺產相續其物カ果シテ古來ノ慣例ナリシヤ否ヤ斯拉我國ニ於テハ稍疑ハシキコトニ屬ス隨テ遺產相續ニ付キ嫡庶ノ間其權利ヲ異ニスルハ果シテ我國ノ慣習ナリヤ否ヤ未タ吾人ノ充分研究セサル所ナリ予ノ見ル所ニ依レハ此ノ如キ規定ハ全ク人ノ感情ニ基キタルモノニシテ人ノ感

情ニ於テ私生子ノ權利ヲ嫡出子ヨリ尠ナカラシムルコトヲ是認スルカ如キ時代ニ於テ其社會ニ於ケル秩序ヲ保タシカ爲メ適當ナル法律ノ規定ヲ設ケント欲セハ亦其感情ニ適シタル規定ヲ設クルコト最モ相當ナルヲ以テ法律ハ此ノ如キ規定ヲ設ケタルモノナルヘシ
第千四條但書ハ直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トスト云ヘリ故ニ被相續人ノ嫡出子及ヒ庶子私生子カ同時ニ相續スルトキハ何等ノ疑ナシト雖モ若シ被相續人ノ子ノ嫡出子及ヒ庶子私生子カ同時ニ相續スルトキハ如何其嫡出子及ヒ庶子私生子カ遺產相續人タルヘキ其父母ノ順位ニ於テ相續スル場合ハ第千五條ニ規定アルヲ以テ是又何等ノ疑ナシト雖モ若シ被相續人ノ子カ悉ク相續ヲ拋棄シタルカ爲メ被相續人ノ孫ニ當ル者カ自己ノ順位ニ於テ相續ヲ爲スヘキ場合ニ被相續人ノ子及ヒ孫ニ嫡出子庶子私生子數人アルトキハ其相續分ハ如何ニシテ之ヲ定ムヘキヤ予ノ考フル所ニ依レハ私生子トハ父母ノ婚姻外ニ生レタル子ト云フノ義ニシテ單ニ父母ニ對シテ稱フル稱呼ニ過キス故ニ父母ニ對シテ嫡出子タルトキハ其父

母カ私生子タルトキト雖モ尙ホ之ヲ嫡出子ト云ハサルヘカラス之ニ反シテ父母ニ對シテ私生子ナルトキハ其父母カ嫡出子タルトキト雖モ尙ホ之ヲ私生子ト云フヘキナリ第千四條ノ但書ハ何等ノ區別ヲモ設ケスシテ單ニ嫡出子庶子又ハ私生子ナル文字ヲ用ヒタルカ故ニ同條ニ所謂嫡出子庶子私生子ト云フハ右ニ述ヘタル稱呼ニ依リタルモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ相續ヲ爲スヘキ孫ノ相續分ハ其父母カ嫡庶私如何ナル間柄ナルニモ拘ラス一ニ自己ノ嫡庶私如何ニ因リテ定マルヘキモノナリ其結果トシテ次ノ如キ決定ヲ爲サルヘカラス

- (イ) 被相續人ノ嫡出子ノ嫡出子ト其私生子ノ嫡出子ト競爭スルトキハ其相續分ハ同一ナリ
- (ロ) 被相續人ノ嫡出子ノ私生子ト其私生子ノ嫡出子ト競爭スルトキハ嫡出子ノ私生子ノ相續分ハ私生子ノ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一ナリ
- (ハ) 被相續人ノ嫡出子ノ私生子ト其私生子ノ私生子ト競爭スルトキハ其相續分ハ互ニ相均シキモノトス

トアリ隨テ衣服ノ如キ生活ニ必要ナル日用品タルヘシト雖モ其供給ニ付キテハ此先取特權存在セス又酒類牛乳ノ如キ飲料ハ果シテ生活ニ必要ナル飲食品ナリト云フコトヲ得ヘキヤ尙ホ生活ニ必要ナル米鹽薪炭ノ如キモ生活ニ必要ナル程度ヲ超過セシ分量ニ付キテハ先取特權ナシ

第三時期ニ關スル制限 最後ノ六ヶ月ノ供給ナルコトヲ要ス

第二款 動産ノ先取特權

第三百十一條ハ規定シテ曰ク左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ質貸借
- 二 旅店ノ宿泊
- 三 旅客又ハ荷物ノ運輸
- 四 公吏ノ職務上ノ過失
- 五 動産ノ保存
- 六 動産ノ賣買

七 種苗又ハ肥料ノ供給

八 農工業ノ勞役

以上列記セシ八種ノ原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動產ノ上ニ先取特權ヲ有ス即チ本法ハ八種ノ動產ノ先取特權ヲ認メタルモノナリ

第一 不動産賃貸ノ先取特權

不動産賃貸ノ先取特權ニ關シテハ第三百十二條乃至第三百十六條ニ規定セリ
第一 如何ナル債權ニ付キ此先取特權アリヤ 是レ第三百十二條ニ於テ規定スル所ニシテ原則トシテ不動産ノ賃貸借關係ヨリ生スル賃貸人ノ權利ハ凡テ皆此先取特權ニ依リテ保護セラレルモノナリ即チ其不動産ノ借貸ハ勿論賃貸人カ修繕費ヲ負擔スヘキ約束アル場合ニ於テ其義務ヲ履行セスシテ修繕ヲ爲サハルトキハ其修繕ノ費用其他賃借人カ故意又ハ過失ニ因リテ不動産ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於ケル其賠償額等皆此先取特權ニ依リテ保護セラレ、モノナリ而シテ第三百十二條ニ規定セシ此原則ノ適用及ヒ制限ハ之ヲ第三百十五條ニ規定セリ後ニ講述スルノ機會アルヘシ

此先取特權ハ不動産ノ賃貸借ノ場合ニノミ存在スルカ如シト雖モ第二百六十六條第二項及ヒ第二百七十三條ニ於テ賃貸借ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノト爲セシヲ以テ土地ノ所有者ハ地上權者カ拂フヘキ地代永小作人カ拂フヘキ小作料ニ付テハ共ニ此先取特權ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキモノナリ
第二 此先取特權ノ目的物 是レ第三百十三條及ヒ第三百十四條ノ兩條ニ規定スル所ナリ

(一) 土地ノ賃貸人ノ先取特權ノ目的物四種アリ即チ左ノ如シ(第三一三條第一項)

- (1) 賃借地ニ備附ケタル動產 賃借地ニ備附ケタル動產トハ果シテ如何ナル物ヲ指スヤ一讀其意義ヲ解シ難シト雖モ賃借地ニ建物アル場合ニ於テハ其建物ニ備附ケタル動產ハ即チ賃借地ニ備附ケタル動產ナリ例ヘハ賃借地ノ建物ニ入レ置キタル牛馬農具ノ如シ
- (2) 賃借地ノ利用ノ爲ニスル建物ニ備附ケタル動產 賃借地外ニアル建物ニ備附ケタル動產ヲ云フモノニシテ賃借地ノ利用ノ爲ニスル建物トハ耕地ヲ賃貸セシ場合ニ於ケル其耕地ニ施スヘキ肥料ヲ製造シ又ハ其耕地ノ收穫物

ヲ保存スル爲メニ設ケタル建物ノ如キ是ナリ
 (3)賃借地ノ利用ニ供シタル動産 例ヘハ土地ノ耕作ニ使用スル牛馬農具ノ如キ是ナリ而シテ此場合ニ於テハ法律ハ賃借地及ヒ其利用ノ爲ニスル建物外ニアル場合ヲ豫想スルモノニシテ賃借人ノ住宅等ニ於ケル動産ナル場合多カルヘシ

(4)賃借人ノ占有ニ在ル賃借地ノ果實 賃借地ヨリ收穫セシ農産物等ニシテ賃借人ノ占有シ居ル物ヲ云フ何故ニ賃借人ノ占有ニ在ルコトヲ必要トセシヤ且ツ此要件ハ第三百三十三條ニ於テ先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得スト規定スルヲ以テ殆ト其必要ヲ見サルカ如シ然リト雖モ賃借人カ賃借地ノ果實ヲ窃取セラレ又ハ強奪セラレシ場合ノ如キ勿論引渡ヲ爲セシニ非サルヲ以テ此要件ニシテ規定セラレシハ賃借人ハ先取特權ヲ行フヲ妨ケサルヘシト雖モ賃借人ノ占有ニ非サル果實ノ如キハ通常賃借人ハ先取特權行ハレサルヘシト思考スルナルヘシ是レ此要件ヲ規定セシ所以ナルヘシ

前述セシ四種ノ目的物中第一第二及ヒ第三種ノ目的物ニ付キ先取特權ヲ行フコトヲ得セシムル所以ハ其ニ賃借人ハ此等ノ動産ヲ以テ自己ノ債權ノ質物ノ如ク看做スモノナリトノ理由ニ基クモノナリト雖モ獨リ第四種ノ果實ニ至リテハ然ラスシテ所謂擔保ノ原因ヲ爲スモノナリトノ理由ニ基クモノナリ即チ此等ノ果實ノ生産セラレシハ種子勞力及ヒ肥料等モ與テ力アリト雖モ賃借人カ土地ヲ貸與シ之ヲ利用セシメシニ因ルモノナレハナリ

(二)建物ノ賃借人ノ先取特權ノ目的物 此場合ハ土地ノ賃借ノ場合ニ於ケルカ如ク之ヲ區別スルノ必要ナシ即チ賃借人カ其建物ニ備附ケタル動産ヲ以テ其目的物トス第三一三條第二項此場合ニ於ケル先取特權モ亦質物ト看做ストノ理由ニ基クモノナリ

土地又ハ建物ニ備附ケタル動産トハ果シテ如何ナル種類ノ動産ヲ指稱スルモノナルヤ思フニ備附ケタル動産トハ其土地又ハ建物ノ上ニ一定ノ期間内之ヲ留存セシメ且ツ留存セシ有様ニ於テ使用スヘキ動産ヲ云フヘキモノナルヘク其最モ明白ナル例ヲ舉クレハ机椅子棚等ナルヘシ而シテ金錢或ハ賃借人及ヒ

其家族ノ一身ノ使用ニ供シタル金玉、寶石類ノ備附ケタル動産ニ非サルコトハ何人モ爭ハサル所ナルヘク舊民法ノ如ク特ニ明規スルノ必要ナカルヘシ隨テ新民法ニ於テハ此ノ如キコトヲ規定セサルハ勿論單ニ備附ケタル動産ト明規セシノミナルヲ以テ或ハ解釋上困難ナル場合ヲ生スルコト無キニ非サルヘシ

此先取特權ノ目的物ニ關シテ尙ホ講述スヘキ二問題アリ其一ハ貸借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於ケル貸借人ノ先取特權ノ目的物如何ノ問題ニシテ其二ハ貸借人カ他人ノ所有物ヲ貸借不動産ノ上ニ持來リシ場合ニシテ前者ハ第三百十四條ニ於テ之ヲ規定シ後者ハ第三百十九條ニ於テ之ヲ規定セリ

貸借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合 貸借人カ其貸借權ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸借物ヲ轉貸シタル場合ニ於テ貸借人ノ先取特權ハ其讓受人又ハ轉借人ノ動産ニモ及フヘキモノナルコトハ第三百十四條ノ明規スル所ナリ隨テ貸借人ハ當ニ讓受人又ハ轉借人カ負擔スル義務ニ付テノミ此先取特權ヲ行フコトヲ得ルニ止ラスシテ讓渡又ハ轉貸ノ前ニ於テ貸借人カ負擔セル義務ニ付テモ尙ホ讓受人

又ハ轉借人ノ動産ノ上ニ其先取特權ヲ行フコトヲ得ヘキモノナリ是レ一見貸借人ノ保護ニ偏スルカ如キ觀アリト雖モ土地又ハ建物ニ備附ケタル動産中賃借人ノ動産ト轉借人ノ動産トハ之ヲ識別スルコト極メテ困難ナルノミナラス多クノ場合ニ於テ貸借人ハ賃借人ノ動産ナリト信スルナルヘク加之賃借人自ラ不動産ヲ使用スル場合ニ於テハ必ス多少ノ動産ヲ備附クルニ非サレハ其不動産ヲ使用スル能ハサルヘシト雖モ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ヲ爲セシ場合ニ於テハ讓受人又ハ轉借人カ之ニ自己ノ動産ヲ備附クルナルヘシ故ニ此等ノ動産ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得セシメスルハ賃借人ハ爲ニ無擔保トナルコトナキヲ保セサレハナリ尙ホ賃借人ハ賃借權ノ讓受人又ハ轉借人ヨリ賃借人ニ對シテ支拂フヘキ金錢アル場合ニ於テ其金錢ノ上ニモ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘキハ第三百十四條後段ノ規定スル所ナリ

賃借人カ他人ノ所有物ヲ賃借不動産ノ上ニ持來リシ場合 是レ第三百十九條ニ規定スル所ニシテ第九十二條乃至第九十五條ノ規定即チ所謂瞬間時効ノ規定ハ不動産賃貸ノ先取特權ノ場合ニ準用セラルヘキモノト爲セリ蓋シ所

謂時間時効ノ規定ハ純然タル占有者ニ關スル規定ナルモ不動産ノ賃貸人ハ其賃貸セシ土地又ハ建物ニ備附ケラレタル動産ニ付キテハ之ヲ占有スル者ナリト謂フコトヲ得サルヲ以テ特別ノ明文ナクシテ當然之ヲ適用スル能ハス是レ第三百十九條ノ規定アル所以ニシテ依テ以テ不動産賃貸人ハ賃借人カ賃借不動産ノ上ニ持來リシ他人所有ノ動産ニ付キテモ其上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘキナリ否ヲサレハ善意ノ不動産賃貸人ノ先取特權ハ有名無實ニ終ルコトナキヲ保セシテ其保護ニ缺タル所アレハナリ即チ不動産ノ賃貸人ハ第九十二條ノ準用ヲ受ケ賃借人カ賃借不動産ニ備附ケタル動産ニシテ他人ノ所有ニ屬スルモ若シ賃貸人ニシテ善意ニシテ且ツ過失ナキトキハ其動産ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ然リト雖モ其動産カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ第九十三條ノ準用セラルルカ爲ニ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間ハ其回復ヲ請求スルコトヲ得ヘキヲ以テ隨テ賃貸人ハ其上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得サルヘシ但シ其動産ニシテ假令盜品又ハ遺失物ナルモ賃借人ニシテ其動産ト同種ノ物ヲ販賣スル商人ナルトキハ第九十四條ノ準用ノ

結果被害者又ハ遺失主ハ無償ニテ其物ヲ回復スルコトヲ得サルヘシ又賃借人ノ許ニ在ル家畜外ノ動産ニシテ假令他人カ飼養セシ物ナルモ賃貸人ニシテ正當ニ得タル物ナリト信スルトキハ遺失ノ時ヨリ一ヶ月ヲ經過セシ場合ニ於テハ賃貸人ハ第九十五條ノ準用ニ依リ其上ニ先取特權ヲ行使スルコトヲ得ヘキモノナリ尙ホ第三百十九條ニ依リ所謂時間時効ノ規定ハ旅店宿泊ノ先取特權及ヒ運輸ノ先取特權ノ場合ニ準用セラル、モノナルコトヲ注意スヘシ第三此先取特權ノ制限 不動産賃貸ノ先取特權ハ極メテ強力ニシテ且ツ此先取特權ニ依リテ保護セラル、債權額モ多額ナル場合渺カラサルヲ以テ其制限ヲ規定スルニ非スハ爲ニ他ノ債權者ヲシテ意外ノ損失ヲ蒙ラシムルコトナキヲ保セサルナリ而シテ第三百十五條及ヒ第三百十六條ハ實ニ此制限ヲ規定セシモノナリ

第三百十五條ニ依レハ賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ前期當期及ヒ次期ノ借貸其他ノ債務及ヒ前期并ニ當期ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在スト即チ破産相續ノ限定承認又ハ法人ノ清算等ニ依

リテ財産ノ總清算ヲ爲ス場合ニ於テハ貸貸人ハ其不動産ノ借貸其他貸貸借關係ヨリ生シタル貸借人ノ債務ノ全部ニ付キ先取特權ヲ有スルニ非スシテ借貸其他ノ債務ニ付テハ前期當期及ヒ次期損害ノ賠償ニ付テハ前期并ニ當期ニ於テ生シタルモノ、ミニ付キ先取特權ヲ有スルモノナリ而シテ前期當期次期等ノ期間ハ如何ニシテ測定スルヤ曰ク當期トハ財産ノ總清算ノ發生シタル期間ニシテ前期ハ之ニ先タツモノニシテ次期ハ之ニ次クモノヲ云フ而シテ借貸ノ支拂時期ハ通常契約ヲ以テ之ヲ定ムヘク若シ當事者間ニ契約ナキモ多クハ一定ノ慣習アリテ之ニ因リテ定ムルコトヲ得ヘシト雖モ契約慣習共ニ據ルヘキモノナキトキハ建物及ヒ宅地ニ付テ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ支拂フヘキモノナルコトハ第六百十四條ノ規定スル所ナリ隨テ建物及ヒ宅地ニ付テハ一月ヲ以テ一期トシ宅地以外ノ土地ニ付テハ一年ヲ以テ一期ト爲スモノナリ

此制限ヲ規定セシ所以ハ他ナシ此等ノ場合ニ於テ貸貸人ヲシテ借貸其他貸貸借關係ヨリ生シタル貸借人ノ債務ノ全部ニ付キ先取特權ヲ有スルモノト爲セ

ハ爲ニ他ノ債權者ヲシテ意外ノ損失ヲ被ラシメ或ハ其極他ノ債權者ハ毫モ辨濟ヲ受タル能ハサルカ如キ結果ヲ生スルコトナキヲ保セサレハナリ如何トナレハ借貸ノ時効ハ五年ナルヲ以テ過去五年分ノ借貸ハ勿論殊ニ破産ノ場合ノ如キ貸借人ハ期限ノ利益ヲ失フヲ以テ契約期間内ノ將來ノ借貸ニ付テ貸貸人ハ先取特權ヲ有スヘク加之貸貸人貸借人通謀シテ他ノ債權者ヲ害スルコトナキヲ保セス是レ此制限規定アル所以ニシテ貸貸人ニシテ數回分ノ借貸ヲ請求セシテ貸借人ノ不拂ノマヽニ放置スルカ如キハ其怠慢ナリト云フヲ得ヘク況ンヤ制限ノ範圍外ニ於テモ貸貸人ニ普通ノ債權者トシテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキハ勿論ナルニ於テヲヤ

第三百十六條ニ依レハ「貸貸人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス」ト是レ我國ノ慣習ヲ參酌シテ規定セラレタル制限ナリ從來我國ニ於テハ先取特權ノ思想ナカリシヲ以テ建物宅地ノ賃貸借ニ關シテハ敷金トシテ貸借人ヲシテ賃貸借契約成立ノ當時ニ於テ貸貸人ニ對シテ一定ノ金額ヲ差入レシムルノ良習慣行ハレタリ敷

第二 旅店宿泊ノ先取特權

旅店宿泊ノ先取特權ハ第三百十七條ニ規定スル所ニシテ即チ旅客其従者及ヒ牛馬ノ宿泊料并ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在スルモノナリ蓋シ旅店ノ主人ハ旅客カ携帯セシ手荷物ヲ以テ其宿泊料等ノ擔保ト思考スルハ極メテ當然ノ事理ニシテ之ヲ以テ自己ノ債權ノ質物ト看做スヘシ是レ此先取特權ヲ附與セシ所以ナリ而シテ此先取特權ヲ以テ保護セラルル債權ハ旅客其従者及牛馬ノ宿泊料并ニ飲食料ナリ隨テ其旅客ニシテ獵犬ヲ携ヘ共ニ宿泊スルモ其獵犬ノ宿泊料并ニ飲食料ノ如キ此先取特權ヲ以テ保護セラルヘキ

民法物上擔保

第三 運輸ノ先取特權

運輸ノ先取特權ハ第三百十八條ニ於テ規定スル所ニシテ即チ旅客又ハ荷物ノ運送貨及ヒ附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在スルモノナリ是レ亦前述セシ旅店宿泊ノ先取特權ヲ規定セシト同一ノ理由ニ基クモノニシテ運送人ハ自己ノ占有スル荷物ヲ以テ運送貨等ノ債權ニ對スル擔保ト思考スヘキハ當然ノ事理ナレハナリ

此先取特權ニ依リテ擔保セラル、債權ハ旅客又ハ荷物ノ運送貨及ヒ附隨ノ費用ニシテ附隨ノ費用トハ運送人ノ立替ヘタル關稅保險料入市稅等ノ如キ是ナリ而シテ此先取特權ハ運送業者ナルト之ヲ以テ營業ト爲サル者ナルトヲ問ハス荷タモ旅客又ハ荷物ヲ運送セシ者ハ何人ト雖モ此先取特權ノ保護ヲ受クルコトヲ得ヘキモノナリ而シテ此先取特權ノ目的物ハ運送人ノ手ニ存スル荷物ナリ即チ運送人カ占有スル荷物ヲ以テ其目的物ト爲スモノナリ隨テ旅客荷主又ハ荷物ノ受取人ニ荷物ヲ引渡セハ最早運送人ハ之ニ對シテ先取特權ヲ行使スルコトヲ得サルハ勿論ニシテ汽車、海船ノ乘客カ鐵道會社又ハ海船會社ニ

托セシテ自ラ客車又ハ船室中ニ携帯セシ荷物ノ如キハ之ヲ以テ運送人ノ手ニ存スル荷物物ナリト云フコトヲ得サルヘキヲ以テ運送人ハ之ニ對シテ先取特權ヲ行使スルコトヲ得サルナリ

又荷物運送人ハ他人ノ物ノ占有者ニシテ且ツ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スル者ナレハ運送貨等ノ辨濟ヲ受クルマテ其荷物ヲ留置スルコトヲ得ヘシ即チ此場合ニ於テ運送人ハ運輸ノ先取特權ト留置權トヲ併有スルモノニシテ兩者相俟テテ運送人ノ保護全キモノト云フヘク隨テ運輸ノ發達ヲ期スルコトヲ得ヘキモノナリ

尙ホ第三百十九條ニ依リ瞬間時刻ノ規定準用セラルヘシ

第四 公吏保證金ノ先取特權

公吏保證金ノ先取特權ハ第三百二十條ニ於テ規定スル所ニシテ即チ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在スルモノナリ蓋シ公吏ヲシテ保證金ヲ供セシムル所以ハ他ナシ此等ノ公吏カ職務上ノ過失ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其賠償ニ充テシム

ルカ爲メニシテ第三百廿一條ハ實ニ保證金ヲ供セシメタル豫定ノ目的ニ向テ其保證金ヲ使用スルコトヲ規定セシモノト云フヘク被害者ハ先取特權ニ依リ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシメタルハ、債權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過此先取特權ニ依リテ擔保セラル、債權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル一切ノ債權ニシテ公吏トハ執達吏公證人ノ如キ是ナリ執達吏登用規則第二十三條公證人規則第十八條而シテ其先取特權ノ目的果シテ如何ヲ一言セシ如ク此先取特權ハ保證金其物ノ上ニ存在スルニ非スシテ保證金ノ返還ヲ受クヘキ公吏ノ債權ノ上ニ存在スルモノナリ隨テ此場合ニ於テハ先取特權ハ物權ニ非サルナリ

第五 動産保存ノ先取特權
動産保存ノ先取特權ハ第三百廿一條ニ於テ規定スル所ニシテ即チ動産ノ保存費ニ付キ存在スルモノナリ動産ノ先取特權中既ニ講述セシ第一乃至第四ノ先取特權ハ共ニ皆質物ト看做ストノ理由ニ基キタルモノナリト雖モ茲ニ説明スルニキ動産保存ノ先取特權即チ第五乃至第八ノ先取特權ハ共ニ皆擔保ノ原因ヲ

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ野紙ニ問題ト其疑點トヲ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ
半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタル質疑ハ回答セス

亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義録ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘシ

葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十二年十月十九日印刷
明治三十二年十月二十日發行

編輯者 東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地
小田 幹治 郎

印刷者 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 鐵五 郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 活版 所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 東京市麹町區富士見
町六丁目十六番地

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可